四国災害アーカイブスの石碑等リスト

令和2年7月

四国災害アーカイブス事務局

はしがき

この石碑等リストは、四国災害アーカイブスに掲載されている石碑等の情報をとりまとめたものです。石碑等の場所、石碑等が設置される契機となった災害の概要、石碑等の写真など基本的な情報を示しています。石碑等の碑文を示したり、解説することを目的としたものではありません。

石碑等には、災害に関連した石碑のほか、標識、プレート、石段、墓石等を含めています。リストに掲載した石碑等の件数は、徳島県76件、香川県65件、愛媛県39件、高知県97件の合計277件です。

石碑等についてもっと知りたい時には、石碑等リストにある「四国災害アーカイブスで調べる」の番号をクリックしてください。四国災害アーカイブスで、関連する情報や写真、位置情報等を知ることができます。

四国は古来災害に見舞われてきた地域です。風水害、地震・津波、渇水、土砂災害、高潮、火災等の災害に関する石碑等が各地にあります。これらの石碑等は先人が後世の人々に災害の様子や教訓等を伝えるために設置してきたものです。この石碑等リストが多くの人に活用されて、四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っています。

令和２年７ 月

一般社団法人　四国クリエイト協会
理事長　　工藤　建夫

凡　例

徳島県の石碑等・・・・・・・・徳島 1～22 頁
香川県の石碑等・・・・・・・・香川 1～20 頁
愛媛県の石碑等・・・・・・・・愛媛 1～13 頁
高知県の石碑等・・・・・・・・高知 1～31 頁

石碑等リストの件数は以下のとおりです。

	件数	災害種類別						
		風水害	地震・津波	渇水	土砂災害	高潮	火災	その他
徳島県	76	31	36	3	13	2	4	0
香川県	65	34	2	28	14	2	0	0
愛媛県	39	15	3	19	2	3	0	3
高知県	97	49	40	4	18	7	2	0
合計	277	129	81	54	47	14	6	3

注：災害種類が重複している場合があるので、災害種類別の合計は全体の件数とは一致しません。

目　次

＜徳島県＞	（頁）		（頁）
1. 春日神社境内の敬諭碑（松茂町）	徳島 1	25. 川上の災害復旧記念碑（美馬市）	徳島 7
2. 新見嘉次郎の功績碑（北島町）	徳島 1	26. 真光寺の十六地蔵尊（つるぎ町）	徳島 8
3. 川内支所前の農地復旧記念碑（徳島市）	徳島 1	27. 十六地蔵尊に由来する平和を願う鐘　（つるぎ町）	徳島 8
4. 蛭子神社の百度石（徳島市）	徳島 1	28. 三庄公民館の水防竹林記念碑（東みよし町）	徳島 8
5. 徳島市役所前の第二室戸台風浸水水位標（徳島市）	徳島 2	29. 西庄八柱神社の水防竹林記念碑（東みよし町）	徳島 8
6. 蔵珠院前の洪水の水位を示す標柱（徳島市）	徳島 2	30. 善徳不動之碑（三好市）	徳島 9
7. 翫城地橋のたもとにあるお地蔵様のお堂（阿波市）	徳島 2	31. 善徳のやすらぎの大地碑（三好市）	徳島 9
8. 天椅立神社の石段（東みよし町）	徳島 2	32. 勝浦修堤碑（小松島市）	徳島 9
9. 第十堰付近の昭和 29 年洪水痕跡水位板（石井町）	徳島 3	33. 豊浦神社の安政地震の津波の碑（小松島市）	徳島 9
10. 愛宕地蔵（石井町）	徳島 3	34. 万代堤の碑（阿南市）	徳島 10
11. 稲垣監物碑（吉野川市）	徳島 3	35. 大井手堰跡碑（阿南市）	徳島 10
12. 麻名用水碑（吉野川市）	徳島 3	36. 齋伊久太翁碑（阿南市）	徳島 10
13. 大正元年洪水痕跡を示す石柱（吉野川市）	徳島 4	37. ガマン堰跡の標識（阿南市）	徳島 10
14. 吉野川改修記念碑（吉野川市）	徳島 4	38. 一の堰記念碑（阿南市）	徳島 11
15. 光泉寺本堂前の昭和 29 年洪水記録柱（美馬市）	徳島 4	39. 椿町の八幡神社の常夜燈（阿南市）	徳島 11
16. 光泉寺の地蔵像（美馬市）	徳島 4	40. 和光神社の昭和南海地震津波碑（阿南市）	徳島 11
17. 大柳神社境内の防災工事記念碑（美馬市）	徳島 5	41. 住吉神社の海嘯潮痕標石（阿南市）	徳島 11
18. 大柳神社境内の記念碑（美馬市）	徳島 5	42. 平地区の慰霊碑（那賀町）	徳島 12
19. 古宮の災害復旧記念碑（美馬市）	徳島 5	43. つずら峠の高磯山崩壊碑（那賀町）	徳島 12
20. 小島団地の防災移転記念碑（美馬市）	徳島 6	44. 春森の高磯山崩壊慰霊碑（那賀町）	徳島 12
21. 初草団地の防災移転記念碑（美馬市）	徳島 6	45. 志和岐公民館前の震災碑（美波町）	徳島 13
22. 拝村団地の防災移転記念碑（美馬市）	徳島 6	46. 東由岐の康暦碑（美波町）	徳島 13
23. 穴吹箇所の平成 16 年台風 23 号浸水記録（美馬市）	徳島 7	47. 貞治の碑（美波町）	徳島 13
24. 川井の殉職の碑（美馬市）	徳島 7	48. 東由岐公民館前の東由岐浦修堤碑（美波町）	徳島 13

	（頁）
49. 東由岐公民館前の室戸台風災害記念碑（美波町）	徳島 14
50. 東由岐天神社下の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島 14
51. 由岐保育所前の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島 14
52. 西由岐公民館前の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島 15
53. 木岐公民館前の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島 15
54. 木岐の八幡神社の石段（美波町）	徳島 15
55. 木岐の延命寺の石段（美波町）	徳島 16
56. 木岐白浜の王子神社前の灯籠（美波町）	徳島 16
57. 大牟岐田の児童公園の昭和南海地震記念碑（牟岐町）	徳島 16
58. 大牟岐田の児童公園の南海震災史碑（牟岐町）	徳島 17
59. 牟岐小学校前の大震潮記念碑（牟岐町）	徳島 17
60. 牟岐小学校前の昭和南海地震記念碑（牟岐町）	徳島 17
61. 牟岐小学校前の南海地震津波最高潮位碑（牟岐町）	徳島 18
62. 浅川天神社の折損鳥居（海陽町）	徳島 18
63. 浅川天神社の南海大地震記念碑（海陽町）	徳島 18
64. 浅川天神社にある安政の津波碑文碑（海陽町）	徳島 19
65. 大歳神社前の南海地震津波最高潮位碑（海陽町）	徳島 19
66. 浅川観音堂の宝永ノ津浪の碑（海陽町）	徳島 16
67. 観音堂石段の津波襲来地点石標（海陽町）	徳島 20
68. 震災後 50 年南海道地震津波史碑（海陽町）	徳島 20
69. 浅川出張所前の南海地震津波最高潮位碑（海陽町）	徳島 20
70. 御崎神社の大地震津浪記碑（海陽町）	徳島 21
71. 保瀬大崩壊の旧碑（海陽町）	徳島 21
72. 保瀬大崩壊の碑（海陽町）	徳島 21
73. 奥浦の楠神社の治水記念碑（海陽町）	徳島 21
74. 鞆浦海嘯記碑（海陽町）	徳島 22
75. 鞆浦の大岩慶長碑（海陽町）	徳島 22
76. 鞆浦の大岩宝永碑（海陽町）	徳島 22

＜香川県＞

	（頁）
1. 相生坂元の災害復旧工事完工碑（東かがわ市）	香川 1
2. 馬宿川の記念碑「豊潤」（東かがわ市）	香川 1
3. 笠松地区のあの日を忘れない碑（東かがわ市）	香川 1
4. 白鳥湛水防除事業竣工之碑（東かがわ市）	香川 2
5. 西山の悲願地蔵（東かがわ市）	香川 2
6. 田之口池碑（東かがわ市）	香川 2
7. 田之口池堤防の災害復旧記念碑（東かがわ市）	香川 3
8. 忘れじの標碑（さぬき市）	香川 3
9. 忘れじの標横の慰霊碑（さぬき市）	香川 3
10. 鴨庄新開の水害記念碑（さぬき市）	香川 4
11. 竹内熊太郎頌徳碑（さぬき市）	香川 4
12. 庵治漁港の平成 16 年高潮浸水位プレート（高松市）	香川 4
13. 新川河川激特事業竣工記念碑（高松市）	香川 5
14. 扇町の平成 16 年高潮浸水位プレート（高松市）	香川 5
15. 鹿の井出水記念碑（高松市）	香川 5
16. 船岡池之碑（高松市）	香川 6
17. 三郎池の増築記念碑（高松市）	香川 6
18. 三郎池の導水路竣工記念碑（高松市）	香川 6
19. 三郎池改修工事記念碑（高松市）	香川 7
20. 鰹宇神社碑（高松市）	香川 7

	（頁）
21. 奈良須池の記念碑（高松市）	香川 7
22. 高塚山頂上の竜王神社と矢延平六神社（高松市）	香川 7
23. 新池築造之碑（高松市）	香川 8
24. 田渡池由来之碑（高松市）	香川 8
25. 蛸山大崩壊の慰霊碑（高松市）	香川 8
26. 内場池立退者望郷之碑（高松市）	香川 9
27. 積徳成仁碑（久保太郎右衛門頌徳碑）（綾川町）	香川 9
28. 萱原導水路改修記念碑（綾川町）	香川 9
29. 滝宮神社の滝宮念仏踊碑（綾川町）	香川 9
30. 城山神社碑（坂出市）	香川 10
31. 雨請天満宮碑（坂出市）	香川 10
32. 大窪池の碑（丸亀市）	香川 10
33. 大窪池ノ宮創建之碑（丸亀市）	香川 10
34. 矢延翁頌徳碑（丸亀市）	香川 11
35. 土岐六蔵頌徳碑（丸亀市）	香川 11
36. 岡田久次郎の碑（丸亀市）	香川 11
37. 赤坂の打越下池之碑（丸亀市）	香川 11
38. 二頭出水の標識（善通寺市）	香川 12
39. 松尾寺の殉職消防組員慰霊碑（琴平町）	香川 12
40. 大川堰碑（まんのう町）	香川 12
41. 松坡長谷川翁功徳之碑（まんのう町）	香川 12
42. 真野池記（まんのう町）	香川 13
43. 加茂神社の綾子踊碑（まんのう町）	香川 13
44. 香川用水記念公園の豊潤碑（三豊市）	香川 13
45. 勝田池之碑（三豊市）	香川 14
46. 溺死三十三霊之塔（三豊市）	香川 14
47. 大谷池碑（観音寺市）	香川 14
48. 大谷池副堤復旧記念碑（観音寺市）	香川 14
49. 大谷池水害記念の句碑（観音寺市）	香川 15
50. 大谷池改修記念碑（観音寺市）	香川 15
51. 井関池の碑（観音寺市）	香川 15
52. 豊稔池碑（観音寺市）	香川 15
53. 落合地区の災害復旧砂防事業竣工碑（観音寺市）	香川 16
54. 五郷ダムの記念碑（観音寺市）	香川 16
55. 鶴亀池碑（観音寺市）	香川 16
56. 姥ヶ懐池の碑（観音寺市）	香川 17
57. 山ノ神神社の災害復旧砂防工事碑（小豆島町）	香川 17
58. やすらぎの塔（小豆島町）	香川 17
59. やすらぎの塔前のスコップを持つ少女像（小豆島町）	香川 18
60. 西城の大水害復興記念碑（小豆島町）	香川 18
61. 真光寺境内の復興記念碑（小豆島町）	香川 18
62. 苗羽の被害復興之碑（小豆島町）	香川 19
63. 大正 7 年水害の碑（小豆島町）	香川 19
64. 谷尻の復旧記念之碑（小豆島町）	香川 19
65. 蛙子池碑（土庄町）	香川 20

＜愛媛県＞

	（頁）
1. 疏水記念公園（戸川公園）の頌徳碑（四国中央市）	愛媛 1
2. 金生川付替記念碑（四国中央市）	愛媛 1
3. 銅山川疎水功労者頌徳碑（四国中央市）	愛媛 1

（頁）

4. 紀伊為一郎翁頌徳碑（四国中央市） 愛媛 2
5. 今城宇兵衛顕彰碑（四国中央市） 愛媛 2
6. 今城宇兵衛頌徳碑（四国中央市） 愛媛 2
7. 今城宇兵衛の墓（四国中央市） 愛媛 3
8. 八坂神社の関川改修復興記念碑（四国中央市） 愛媛 3
9. 瑞応寺の別子銅山遭難流亡者碑（新居浜市） 愛媛 3
10. 碇神社の碑（西条市） 愛媛 4
11. 禎瑞堤防の決壊記念碑（西条市） 愛媛 4
12. 橘新宮神社の由緒記（西条市） 愛媛 4
13. 釜之口井堰に関する標識（西条市） 愛媛 4
14. 河上安固の墓（今治市） 愛媛 5
15. 向雲寺の芋地蔵（今治市） 愛媛 5
16. 松田喜三郎翁頌徳碑（松山市） 愛媛 5
17. 豊穣之源俵原池碑（松山市） 愛媛 5
18. 當郷餓死萬霊塔（松山市） 愛媛 6
19. 道後温泉の湯神社の標識（松山市） 愛媛 6
20. 今村久兵衛顕彰碑（松山市） 愛媛 6
21. 安長堤跡（松山市） 愛媛 7
22. 安長九郎左衛門の墓（松山市） 愛媛 7
23. 関谷忠七墓碑（松山市） 愛媛 7
24. 分水功徳主命碑（松山市） 愛媛 8
25. 菖蒲堰の碑（東温市） 愛媛 8
26. 赤坂泉由来記（砥部町） 愛媛 8
27. 窪田兵右衛門の墓（砥部町） 愛媛 9
28. 窪田兵右衛門の頌徳碑（砥部町） 愛媛 9
29. 窪田兵右衛門辞世の句碑（砥部町） 愛媛 10
30. 素鷲神社の水害復興記念碑（松前町） 愛媛 10
31. 義農神社の義農之墓（松前町） 愛媛 11
32. 義農神社の義農作兵衛之像（松前町） 愛媛 11
33. 大谷池記念碑（伊予市） 愛媛 11
34. 武智惣五郎氏頌徳碑（伊予市） 愛媛 12
35. 大谷池築造殉職者慰霊塔（伊予市） 愛媛 12
36. 須沢の追悼碑（大洲市） 愛媛 12
37. 白滝公民館前の出水標（大洲市） 愛媛 13
38. 肱川治水碑（大洲市） 愛媛 13
39. 竹之窪水騒動碑（大洲市） 愛媛 13

＜高知県＞

1. 加奈木の崩えの標識（室戸市） 高知 1
2. 佐喜浜川上流の治山工事記念碑（室戸市） 高知 1
3. 昭和 9 年海嘯襲来地点碑（山田邸前）（室戸市） 高知 1
4. 昭和 9 年海嘯襲来地点碑（津呂王子宮）（室戸市） 高知 1
5. 昭和 9 年海嘯襲来地点碑（室戸岬港北端）（室戸市） 高知 2
6. 昭和 9 年海嘯襲来地点碑（西河原町）（室戸市） 高知 2
7. 昭和風水害之碑（室戸市） 高知 2
8. 菜生海岸の台風 23 号被災跡地碑（室戸市） 高知 2
9. 加茂谷の殉職碑（北川村） 高知 3
10. 安田川橋の災害復興記念碑（安田町） 高知 3
11. 大山岬の殉職の碑（安芸市） 高知 3
12. 高知県安芸総合庁舎前の高知県技師殉職之碑(安芸市) 高知 4

	（頁）		（頁）
13. 久保高井の耕地整理記念碑（香美市）	高知 4	38. 萩谷の安政南海地震碑（土佐市）	高知 12
14. 観音山の安政地震碑（香南市）	高知 4	39. 震災復興記念碑（土佐市）	高知 12
15. 飛鳥神社の安政地震記念碑（香南市）	高知 5	40. 鳴川公民館の台風 5 号災害碑（土佐市）	高知 13
16. 上岡八幡宮の安政地震記念碑（香南市）	高知 5	41. 復興之塔（土佐市）	高知 13
17. 下井溝改築記念碑（香南市）	高知 5	42. 家俊の災害之記録碑（土佐市）	高知 13
18. 新池建設記念碑（香南市）	高知 6	43. 岩戸川災害復興記念碑（土佐市）	高知 14
19. 繁藤災害の慰霊塔（香美市）	高知 6	44. 高岡堤防竣工記念碑（土佐市）	高知 14
20. 繁藤災害の慰霊碑（香美市）	高知 6	45. 土佐市消防署の浸水記録碑（土佐市）	高知 14
21. 甫喜ヶ峰疎水記念碑（大正 8 年）（香美市）	高知 7	46. 真覚寺日記の標識（土佐市）	高知 15
22. 甫喜峰用水記念碑（昭和 53 年）（香美市）	高知 7	47. 日下川放水路竣工記念碑（日高村）	高知 15
23. 重修山田堰之記の石碑（香美市）	高知 7	48. 池川保健福祉センター前の台風 5 号記念碑(仁淀川町)	高知 15
24. 史蹟山田堰遺構の標識（香美市）	高知 8	49. 宝永地震による天然ダムの災害碑（越知町）	高知 16
25. 平山地区災害記念碑（香美市）	高知 8	50. 宝永津浪溺死之塚（須崎市）	高知 16
26. 堰留神社の標識（香美市）	高知 8	51. 地蔵堂の南海地震碑（須崎市）	高知 16
27. 岡豊小学校の浸水位プレート（南国市）	高知 8	52. 須崎橋の津波之碑（須崎市）	高知 17
28. 室戸台風の復旧記念碑（南国市）	高知 9	53. 須崎八幡宮木札の標識（須崎市）	高知 17
29. 琴平神社の玉垣碑（南国市）	高知 9	54. 津野神社の地蔵台座碑（須崎市）	高知 17
30. 仁井田神社の玉垣碑（高知市）	高知 9	55. 二ツ石大師堂の供養碑（須崎市）	高知 18
31. 浦戸の稲荷神社の石柱碑（高知市）	高知 10	56. 須崎八幡宮の南海大地震遭難者追悼之碑（須崎市）	高知 18
32. 大津地区水害記録碑（高知市）	高知 10	57. 野見海岸の震災復旧記念碑（須崎市）	高知 18
33. 比島山の慰霊碑（高知市）	高知 10	58. 恵比須神社の南海地震記録碑（須崎市）	高知 19
34. 円行寺の災害復旧記念碑（高知市）	高知 11	59. 神明宮石段の最高潮之跡（須崎市）	高知 19
35. 八田堰の跡の標識（高知市）	高知 11	60. 江雲寺石段の最高潮之碑（須崎市）	高知 19
36. いの町吾北総合支所の災害復旧記念碑（いの町）	高知 11	61. 恵比須神社石段の最高潮之跡（須崎市）	高知 20
37. 神谷割石の慰霊碑（いの町）	高知 12	62. 新川橋の桜川水害予防組合の記念碑（須崎市）	高知 20

	（頁）
63. 熊野神社震災碑（中土佐町）	高知 20
64. 久礼大正町市場の由来書（中土佐町）	高知 20
65. 高岡神社の明治 23 年洪水水測標（四万十町）	高知 21
66. 加茂神社の安政津浪の碑（黒潮町）	高知 21
67. 加茂神社の南海大地震の碑（黒潮町）	高知 21
68. 伊田海岸の安政南海地震碑（黒潮町）	高知 22
69. 太平寺石段の最高水位標（四万十市）	高知 22
70. 住吉神社の宝永地震碑（四万十市）	高知 22
71. 為松公園の南海地震碑（四万十市）	高知 23
72. 消防団東中筋分団の水位標（四万十市）	高知 23
73. 東中筋小学校校舎の洪水痕跡（四万十市）	高知 23
74. 四万十川遭難慰霊碑（四万十市）	高知 24
75. 中半小学校の校長先生殉職の碑（四万十市）	高知 24
76. 口屋内のはいたか神社の洪水標（四万十市）	高知 24
77. はいたか神社の宝永地震津波碑（宿毛市）	高知 25
78. はいたか神社の安政地震津波碑（宿毛市）	高知 25
79. 河戸堰記念碑（宿毛市）	高知 25
80. 五味天満宮の大正 9 年水害碑（土佐清水市）	高知 26
81. 五味天満宮の安政地震碑（土佐清水市）	高知 26
82. 唐船島の碑（土佐清水市）	高知 26
83. 中浜港の恵比須神社の地震碑（土佐清水市）	高知 27
84. 池道之助清澄の地震津浪碑（土佐清水市）	高知 27
85. 三崎十字橋の津波碑（土佐清水市）	高知 27
86. 下川口橋の高知西南部豪雨災害碑（土佐清水市）	高知 28
87. 下川口支所の高知西南部豪雨災害記念碑(土佐清水市)	高知 28
88. 下川口支所内の浸水位痕跡（土佐清水市）	高知 28
89. 下川口小学校の水位痕跡プレート（土佐清水市）	高知 29
90. 下川口浦の区長場の浸水水位（土佐清水市）	高知 29
91. 下川口郷の大正 9 年洪水碑（土佐清水市）	高知 29
92. 春日神社の宝永地震碑（土佐清水市）	高知 30
93. 下川口浦の高知西南部豪雨災害 7 周年碑(土佐清水市)	高知 30
94. 貝ノ川八坂神社の西南部豪雨水害記念碑(土佐清水市)	高知 30
95. 蓮光寺の階段（土佐清水市）	高知 31
96. 小才角の高知県西南部豪雨災害碑（大月町）	高知 31
97. 周防形川氾濫水位の標（大月町）	高知 31

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島1	春日神社境内の敬諭碑	徳島県	松茂町	地震・津波 火災	安政元年（1854）、南海地震が起こった。松茂町中喜来の春日神社境内にある敬諭碑には、家屋の倒壊と火災、津波による田畑の冠水などのほか、大地から水が吹き出したこと（液状化現象）が記されている。		徳島6000
徳島2	新見嘉次郎の功績碑	徳島県	北島町	風水害	慶応2年（1866）8月7日、未曾有の洪水により破堤し、鯛浜付近で損田15町歩、秋作田畑皆無、転家流失家屋数十戸、流死数十人の被害が出た。（「板野郡誌」による） 慶応2年の洪水を機に、鯛浜村の新見嘉次郎は、旧吉野川と今切川に堤防を築くことを決意し、明治5年に完成させた。鯛浜に新見嘉次郎の功績碑が建立されている。		徳島3236
徳島3	川内支所前の農地復旧記念碑	徳島県	徳島市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海地震により、地盤沈下が起こった。沿岸地区の農地300余町歩が耕作不能となったため、復旧対策として客土事業を施行して農地を復元した。 川内支所前には、農地復旧記念碑が建立されている。		徳島61
徳島4	蛭子神社の百度石	徳島県	徳島市	地震・津波 火災	嘉永7年（1854）11月4日午前9時頃、遠州灘を震源とするM8.4の大地震が起こった。さらに32時間後の5日午後4時頃、同規模の地震が紀州沖で発生した。阿波でも、地震とそれに伴う津波によって甚大な被害が起こった。海部郡由岐浦では205戸のうち199戸流失、死者19人、浅川浦では206戸全戸流失、東牟岐浦354戸流失などの記録がある。徳島では内町の大火があり、焼失1,000戸、死者200人と言われている。この地震の恐ろしさが、蛭子神社境内の百度石に刻まれている。		徳島60

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島5	徳島市役所前の第二室戸台風浸水水位標	徳島県	徳島市	風水害 高潮	昭和36年（1961）9月16日、第二室戸台風が室戸に上陸し、徳島県東部を通って阪神間に抜けた。本県では記録的な洪水、高潮被害を残した。この台風で、日和佐以北の海岸、特に県北4市では全市ほとんどで床下浸水した。4市21町村に災害救助法が出された。徳島市沖洲町では大手堤防の決壊と沖洲川堤防の乗り越しで大きな被害となり、県庁玄関で地上75cmに達した。 徳島市役所前に第二室戸台風の時の水位標がある。		徳島7229
徳島6	蔵珠院前の洪水の水位を示す標柱	徳島県	徳島市	風水害	慶応2年（1866）8月7日、「寅の水」と言われる洪水が吉野川平野を襲った。徳島市国府町の蔵珠院の板戸と茶室には洪水痕跡が残されている。また、同寺の過去帳には洪水のために無くなった老若男女32人の法名が列記され、同寺は座上2尺余り浸水したと記されている。座上2尺余りとは、山門前の畑の地面からだと約3mの高さに相当する。山門前には洪水痕跡碑が建立されている。		徳島6696
徳島7	翫城地橋のたもとにあるお地蔵様のお堂	徳島県	阿波市（土成町）	風水害	昭和36年（1961）9月15日より16日にかけて、第二室戸台風は480ミリを越える雨量をもたらした。九頭宇谷川の翫城地橋地点では水位が2.4mと警戒水位を大きく突破し、堤防決壊の危機に瀕した。このため、水防管理者（町長）の出動命令のもと全町あげて出動し、堤防に土のうを積み、木流し作業（しぶしという）を実施して堤防決壊を予防した。懸命の水防活動により九頭宇谷川の堤防は守られたが、作業中の分団員が殉職した。これを機に、住民の間に九頭宇谷川の完全改修に関する要望が高まった。		徳島3914
徳島8	天椅立神社の石段	徳島県	東みよし町（三好町）	風水害	昭和29年（1954）9月13日、ジューン台風が九州を横断して日本海に抜けた。この台風により、山間部は300～700ミリの記録的な降雨があり、各河川はあふれた。このため、島づけ（大洪水）となり、水位は天椅立神社の石段12段まで達した。神殿は流され、辻の渡船場横の丸山で発見された。		徳島2531

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島9	第十堰付近の昭和29年洪水痕跡水位板	徳島県	石井町	風水害	昭和29年（1954）9月13日、台風12号（ジューン台風）により、岩津での洪水流量は15,000立米／秒を記録、治水計画の再検討となった。岩津上流部の三好・美馬・麻植郡の各地区では家屋の全壊・流失・浸水が続出した。この出水により、死傷者17人、被害者20,230人の被害が出たほか、本川堤防も各所で破堤寸前の危機に瀕し、漏水の規模も最大であった。 第十堰付近に昭和29年洪水痕跡水位板が設置されている。		徳島6601
徳島10	愛宕地蔵	徳島県	石井町	風水害	明治21年（1888）7月、洪水により、石井町西覚円の堤防が決壊し、多くの民家が流され人命が奪われた。その時、モチの木によじ登り助けを求めた人々がいたが、上流から流れてきた民家が引っ掛かり、モチの木が根元から倒壊し、木も人も濁流に流された。洪水の後、住民は被害の原因が県による堤防工事が遅れたことと内務省の低水工事にあるとして、内務省の改修廃止を県に働きかけ、低水工事は中止された。これは「覚円騒動」として伝えられている。 西覚円の破堤場所付近には愛宕地蔵が建てられている。		徳島6245
徳島11	稲垣監物碑	徳島県	吉野川市（鴨島町）	風水害	宝暦6年（1756）、吉野川で大洪水。牛島村（鴨島町牛島）は大洪水に見舞われ、岸之上に築いていた堤防が崩れるほどの大被害となった。途方に暮れる村人の姿を見て、徳島藩士・稲垣監物は藩の許しが得られない中、自らの判断で村中の農民を集めて密かに堤防を築いた。堤防が完成した朝、監物は堤の上で自害した。この堤防は「監物堤」と呼ばれている。 なお、大正3年に建立された稲垣監物碑には、監物が自害した日は宝暦3年9月9日と記されている。		徳島6260
徳島12	麻名用水碑	徳島県	吉野川市（川島町）	渇水	明治37年（1904）、大干ばつが発生した。これが契機になり、井内恭太郎らの尽力により、麻名用水が明治45年（1912）に完成した。		徳島1513

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島13	大正元年洪水痕跡を示す石柱	徳島県	吉野川市（山川町）	風水害	大正元年（1912）の大洪水の洪水痕跡を示した石柱が、山川町の吉野川改修記念碑の横に立っている。石柱の高さは記念碑の土台から約2.6mである。		徳島6802
徳島14	吉野川改修記念碑	徳島県	吉野川市（山川町）	風水害	昭和3年（1928）、大洪水あり。しかし、昭和2年に完了した吉野川第一期改修工事のため、被害は少なかった。（吉野川治水年表による） 吉野川市山川町に吉野川改修記念碑が建立されている。		徳島6235
徳島15	光泉寺本堂前の昭和29年洪水記録柱	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害	昭和29年（1954）9月13日、台風12号は九州を南から北へ縦断し、大陸に抜けた。四国山脈では南東風が強かったため、異常な豪雨があり、大歩危で572ミリを記録した。このため、吉野川で大洪水となり、脇町の最高水位は14日午前6時～7時頃に11.7mを記録し、脇町の床上浸水は本町、島口、大工町で85戸、八幡下から天王下までの間で約70戸であった。また、舞中島の光泉寺では高さ8尺の石垣の上にある本堂と庫裏が座上2尺程浸水した。貞光町太田では、天井の梁に届くほど浸水した商店があった。 光泉寺本堂前に昭和29年洪水記録柱が設置されている。		徳島2301
徳島16	光泉寺の地蔵像	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害	天保10年（1839）、連日の大雨による大洪水で、土佐の御用木桧材749本が吉野川に流出し、舞中島は大きな被害を受けた。この水害でなくなった人を供養するため、舞中島光泉寺の境内及び穴吹橋から200m程上流右岸に地蔵像が建立された（国道192号をつくるために国道と旧道の分岐点に移転）。（「三好郡誌」による）		徳島2304

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島17	大柳神社境内の防災工事記念碑	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害	昭和20年（1945）9月17日、枕崎台風が九州南部に上陸し、九州を縦断して中国地方を北東進した。このため、吉野川流域では前線による降雨も加わって、平地部で150～20ミリ、山間部で350～450ミリの記録的な雨が降り、吉野川は未曾有の大洪水となった。舞中島、穴吹地区の旧道付近の民家は軒まで水に浸り、穴吹・三島間の国道も冠水し、穴吹町穴吹の中心街にも濁水があふれた。この水害が契機となり、舞中島西端から東端に至る明連川堤防の工事が着手されることになった。 明連川堤防の完成を記念して、昭和35年に大柳神社境内に防災工事記念碑が建立された。		徳島2308
徳島18	大柳神社境内の記念碑	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害	昭和20年（1945）9月17日、枕崎台風が九州南部に上陸し、九州を縦断して中国地方を北東進した。このため、吉野川流域では前線による降雨も加わって、平地部で150～20ミリ、山間部で350～450ミリの記録的な雨が降り、吉野川は未曾有の大洪水となった。舞中島、穴吹地区の旧道付近の民家は軒まで水に浸り、穴吹・三島間の国道も冠水し、穴吹町穴吹の中心街にも濁水があふれた。この水害が契機となり、舞中島西端から東端に至る明連川堤防の工事が着手されることになった。 昭和49年に大柳神社境内に記念碑が建立された。		徳島2308
徳島19	古宮の災害復旧記念碑	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日から13日にかけて来襲した台風17号は、穴吹町に豪雨をもたらし、8日～13日の降水量は穴吹で1,057ミリに及んだ。このため、各地で土砂災害や河川の氾濫等が頻発し、集落が孤立するなどした。町内の被害は死者1人、行方不明1人、重傷1人、軽傷2人、住家の全壊・全焼・流失78棟、半壊・半焼48棟、床上浸水37棟、床下浸水122棟に及んだ。小中学生の台風体験記、町役場各課の記録、手記等が掲載されている。この台風被害により、穴吹町では集団移転が行われた。 古宮には災害復旧記念碑が建立されている。		徳島850

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島20	小島団地の防災移転記念碑	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日から13日にかけて来襲した台風17号は、穴吹町に豪雨をもたらし、8日～13日の降水量は穴吹で1,057ミリに及んだ。このため、各地で土砂災害や河川の氾濫等が頻発し、集落が孤立するなどした。町内の被害は死者1人、行方不明1人、重傷1人、軽傷2人、住家の全壊・全焼・流失78棟、半壊・半焼48棟、床上浸水37棟、床下浸水122棟に及んだ。小中学生の台風体験記、町役場各課の記録、手記等が掲載されている。この台風被害により、穴吹町では集団移転が行われた。 小島団地、初草団地、拝村団地には防災移転記念碑が建立されている。		徳島850
徳島21	初草団地の防災移転記念碑	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日から13日にかけて来襲した台風17号は、穴吹町に豪雨をもたらし、8日～13日の降水量は穴吹で1,057ミリに及んだ。このため、各地で土砂災害や河川の氾濫等が頻発し、集落が孤立するなどした。町内の被害は死者1人、行方不明1人、重傷1人、軽傷2人、住家の全壊・全焼・流失78棟、半壊・半焼48棟、床上浸水37棟、床下浸水122棟に及んだ。小中学生の台風体験記、町役場各課の記録、手記等が掲載されている。この台風被害により、穴吹町では集団移転が行われた。 小島団地、初草団地、拝村団地には防災移転記念碑が建立されている。		徳島850
徳島22	拝村団地の防災移転記念碑	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日から13日にかけて来襲した台風17号は、穴吹町に豪雨をもたらし、8日～13日の降水量は穴吹で1,057ミリに及んだ。このため、各地で土砂災害や河川の氾濫等が頻発し、集落が孤立するなどした。町内の被害は死者1人、行方不明1人、重傷1人、軽傷2人、住家の全壊・全焼・流失78棟、半壊・半焼48棟、床上浸水37棟、床下浸水122棟に及んだ。小中学生の台風体験記、町役場各課の記録、手記等が掲載されている。この台風被害により、穴吹町では集団移転が行われた。 小島団地、初草団地、拝村団地には防災移転記念碑が建立されている。		徳島850

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島23	穴吹箇所の平成16年台風23号浸水記録	徳島県	美馬市（穴吹町）	風水害	平成16年（2004）10月20日、台風23号により、吉野川の被害は浸水面積7,645ha、床上浸水745戸、床下浸水1,975戸に及んだ（旧吉野川は浸水面積3,120ha、床上浸水139戸、床下浸水457戸）。岩津上流流域平均2日雨量は366ミリ、岩津最大流量（推定）は約16,400立米／秒であった。戦後最大の洪水となった。 穴吹箇所に平成16年台風23号浸水記録（階段下から8段目）が示されている。		徳島5987
徳島24	川井の殉職の碑	徳島県	美馬市（木屋平村）	風水害 土砂災害	昭和50年（1975）8月22日から23日未明に、台風6号が襲来した。川井地域、三ツ木地域で山腹崩壊が起こり、民家や道路が流失し、生き埋めとなった人を救出作業中に2回目の崩壊が起こり、消防団員1人、美馬東部消防木屋平分署職員3人が殉職した。また、三ツ木地域ビヤガイチ谷沿いの山地が崩壊し、両岸にあった大きな岩が転がって民家を押しつぶし、2人が圧死した。村内の被害は死者7人、重傷3人、軽傷9人、住宅の全壊14戸、半壊9戸、床上浸水7戸、床下浸水19戸に及んだ。 川井に殉職の碑が建立されている。		徳島668
徳島25	川上の災害復旧記念碑	徳島県	美馬市（木屋平村）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日～13日の台風17号により、剣山では6日間の合計雨量は1837.5ミリに達した。台風17号による災害の特徴は、山間地帯の集中豪雨により、河川が増水し、それが河岸の決壊の誘因となり、地すべりを引き落としたと言われる。村内の被害は住宅の全壊28棟、半壊18棟、床上浸水14棟、床下浸水9棟、田の流失・埋没81ha、畑の流失・埋没144ha等に及んだ。激甚災害の指定を受けた。なお、昭和50年の台風6号による惨事を繰り返さない気持ちが村全体にあったため、人的被害はなかった。 川上には昭和51年の台風17号に関する災害復旧記念碑が建立されている。		徳島669

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島26	真光寺の十六地蔵尊	徳島県	つるぎ町（貞光町）	火災	昭和20年（1945）1月29日夜8時、真光寺本堂で火災が発生した。この火災で、疎開中の大阪市北区南恩加島国民学校3・4年生29人中、16人が焼死した。当時は大人は一人もおらず、火事を知った児童は逃げようとしたものの、寺の雨戸は中々開かず、勝手も分からず逃げ遅れて窒息死したようである。出火の原因として漏電説があったが、結局は不明確であった。（「美馬郡郷土誌」による） 真光寺には十六地蔵尊が建立されている。		徳島2324
徳島27	十六地蔵尊に由来する平和を願う鐘	徳島県	つるぎ町（貞光町）	火災	昭和20年（1945）1月29日夜8時、真光寺本堂で火災が発生した。この火災で、疎開中の大阪市北区南恩加島国民学校3・4年生29人中、16人が焼死した。当時は大人は一人もおらず、火事を知った児童は逃げようとしたものの、寺の雨戸は中々開かず、勝手も分からず逃げ遅れて窒息死したようである。出火の原因として漏電説があったが、結局は不明確であった。（「美馬郡郷土誌」による） 貞光小学校には、平成17年に南恩加島小学校から寄贈された「十六地蔵尊に由来する平和を願う鐘」が建立されている。		徳島2324
徳島28	三庄公民館の水防竹林記念碑	徳島県	東みよし町（三加茂町）	風水害	明治32年（1899）7月、大洪水により、三加茂町内で流出家屋11戸、田畑数十町歩が磧となる大被害が発生した。当時の三庄村村長の国安邦太郎は堤防建設を関係当局に陳情したがかなわず、次善の策として水防竹林の造成を始めた。また、三加茂町中庄の長善寺の過去帳にも、明治32年の洪水に関する記述がある。 中庄の三庄公民館に水防竹林記念碑が建立されている。		徳島6797
徳島29	西庄八柱神社の水防竹林記念碑	徳島県	東みよし町（三加茂町）	風水害	明治32年（1899）7月、大洪水により、三加茂町内で流出家屋11戸、田畑数十町歩が磧となる大被害が発生した。当時の三庄村村長の国安邦太郎は堤防建設を関係当局に陳情したがかなわず、次善の策として水防竹林の造成を始めた。また、三加茂町中庄の長善寺の過去帳にも、明治32年の洪水に関する記述がある。 西庄の八柱神社に水防竹林記念碑が建立されている。		徳島6797

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島30	善徳不動之碑	徳島県	三好市（西祖谷山村）	土砂災害	昭和59年（1984）6月8日未明から、梅雨前線の北上により降りだした雨は10日正午頃まで断続的に降り続き、11日から15日にかけては前線の南下により一時降雨はあがったものの、16日より再び前線の北上により26日まで断続的に降雨となった。6月3日～26日の総雨量は善徳で371ミリとなった。このため、善徳では25日に村道で亀裂が発見されたのをはじめとして、地すべりにより県道、村道、表面排水路に被害が及んだ。		徳島1443
徳島31	善徳のやすらぎの大地碑	徳島県	三好市（西祖谷山村）	土砂災害	昭和59年（1984）6月8日未明から、梅雨前線の北上により降りだした雨は10日正午頃まで断続的に降り続き、11日から15日にかけては前線の南下により一時降雨はあがったものの、16日より再び前線の北上により26日まで断続的に降雨となった。6月3日～26日の総雨量は善徳で371ミリとなった。このため、善徳では25日に村道で亀裂が発見されたのをはじめとして、地すべりにより県道、村道、表面排水路に被害が及んだ。		徳島1443
徳島32	勝浦修堤碑	徳島県	小松島市	風水害	明治32年（1899）7月8日、台風が鹿児島県に上陸し、ゆっくり北上した。8日からの2日間の雨量は、小松島で274ミリであったが、勝浦川上流では特に多く、勝浦川流域で死者は5名となった。勝浦川は、江田村で堤防が決壊し、大洪水に見舞われた。神田瀬川が本流と化し、神代橋が半壊した。 小松島市前原町の勝浦川右岸堤防上に「勝浦修堤碑」が建立されている。		徳島2786
徳島33	豊浦神社の安政地震の津波の碑	徳島県	小松島市	地震・津波	安政元年（1854）11月4日の朝方と夜に地震が起き、5日夕方大地震が発生した。午後5時半頃から火災が発生したため、近隣の者が総出で消火活動をしていたところ、津波の噂が出て人々が逃げたので、小松島浦の7割方は焼き尽くし、朝方の6時頃に鎮火した。人々は土地の高いところに逃げたので、けが人や死者はなかった。津波は小松島浦にも来襲し、沿岸の堤が60m切れて今開、南開方面に塩水が流れ込んだが、大きな被害はなかった。お亀磯はこの津波で水没した。多田助右衛門の記録あり。 赤石町の豊浦神社には安政地震の津波の碑が建立されている。		徳島47

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島34	万代堤の碑	徳島県	阿南市（羽ノ浦町）	風水害	天明7年（1787）、洪水。古毛村の組頭庄屋吉田宅兵衛は、古毛、上大野、明見、岩脇、古庄、西原、高田の7ヶ村組合に立江、宮倉、坂野、鳥尻、大葉、葉浦、中庄を加えて14ヶ村の協議をとりまとめ官許を得て、堤を築いた。 北岸堰の北側に万代堤の碑が建立されている。また、毎年7月には、万代堤を築いた吉田宅兵衛の偉業に感謝して、万代まつりが開催されている。		徳島2109
徳島35	大井手堰跡碑	徳島県	阿南市（羽ノ浦町）	渇水	明治27年（1894）7月、大変な干ばつが続き、那賀川の水は不十分で稲が枯死寸前となり、農家が取水のために大変苦労した。この時、北岸の大井手堰（羽ノ浦町岩脇）と南岸の竹原堰（阿南市下大野町の通称ガマン堰）の水利組合員の間で水争いが起こった。 北岸に大井手堰跡碑が、南岸にガマン堰跡の標識がある。		徳島1415
徳島36	齋伊久太翁碑	徳島県	阿南市（那賀川町）	風水害	明治25年（1892）7月23日、台風が高知市に上陸し、四国、中国を縦断した。那賀川町では赤池で那賀川の堤防決壊、大手海岸の侵食などの被害が出た。山地崩壊は那賀川上流の高磯山（上那賀町）が最大で、これにより那賀川は荒廃をきたし、影響ははかりしれないものとなった。このほか海部川の平井（海南町）、勝浦川の福原（上勝町）などでも大崩壊が起こった。徳島市では高潮によって全市が浸水した。 明治25年以降、大手海岸では台風のたびに堤防が破壊された。今津小学校には大手海岸の堤防修築に尽力した今津村長の齋伊久太翁碑が建立されている。		徳島372
徳島37	ガマン堰跡の標識	徳島県	阿南市	渇水	明治27年（1894）7月、大変な干ばつが続き、那賀川の水は不十分で稲が枯死寸前となり、農家が取水のために大変苦労した。この時、北岸の大井手堰（羽ノ浦町岩脇）と南岸の竹原堰（阿南市下大野町の通称ガマン堰）の水利組合員の間で水争いが起こった。 北岸に大井手堰跡碑が、南岸にガマン堰跡の標識がある。		徳島1415

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島38	一の堰記念碑	徳島県	阿南市	地震・津波	昭和21年（1946）、南海地震により、桑野川下流に位置する一の堰（初代）の一部が損壊した。		徳島1514
徳島39	椿町の八幡神社の常夜燈	徳島県	阿南市	地震・津波	安政元年（1854）11月4日、5日、地震が起こり、津波が襲来した。この本には、徳島県内の安政地震・津波に関する石碑等として、松茂町中喜来・春日神社の敬渝碑、徳島市沖洲・蛭子神社の百度石、佐那河内村・長願寺の扁額、小松島市赤石・豊浦神社の石碑、阿南市・椿八幡神社の常夜燈台石、由岐町木岐・王子神社の石灯籠、志和岐の石碑、牟岐町牟岐小学校前の石碑、出羽島観栄寺の石碑、海南町浅川・天神社の石碑、御崎神社の石碑、熟田峠の地蔵尊碑、海部町鞆浦の海嘯記等が紹介されている。		徳島301
徳島40	和光神社の昭和南海地震津波碑	徳島県	阿南市	地震・津波	昭和35年（1960）5月24日、チリ沖で発生した地震による津波で、太平洋全域に甚大な被害をもたらした。徳島県では床上浸水1,055戸、床下浸水1,032戸などの被害を受けた。（宇佐美龍夫「新編日本被害地震総覧」による）橘町は徳島県で最も被害を受けた地域である。鷲地区では、津波により当時の戸数55戸のうち浸水24戸の被害を受けた。和光神社の石碑にはチリ地震津波の潮位が記されている。		徳島234
徳島41	住吉神社の海嘯潮痕標石	徳島県	阿南市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海地震が発生した。この冊子には、小松島市の「立江川排水改良事業之碑」、立江八幡神社「農地災害復旧碑」、阿南市鷲の和光神社「石碑」、福井町の大原「地神上棟式記念碑」、住吉神社「海嘯潮痕跡標石」、牟岐町大牟岐田の旧旭町南海地震「記念碑」及び「牟岐町における南海震災史碑」、牟岐町中村の「牟岐町南海震災記念碑」、海陽町浅川の「南海津波死没者供養塔」、天神社前「南海大地震記念碑」、「震災後50年南海道地震津波史碑」等に関する情報が掲載されている。		徳島7253

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島42	平地区の慰霊碑	徳島県	那賀町（木頭村）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）の台風17号により、9月8日から断続的に雨が強く降り、9日夜には大雨洪水警報が発令された。8日から13日までの雨量は北川で2,500ミリを超え、村内各所に被害をもたらした。平地区では山津波により建設作業員宿舎1棟が流され、死者6名、重傷者1名を出した。家屋の全壊2戸、半壊1戸、浸水27戸のほか、国道195号の崩壊、那賀川左岸の貯木場の擁壁決壊、山林、耕地、林道、公共施設等、さまざまな分野に被害が及んだ。 平地区には慰霊碑が建立されている。		徳島349
徳島43	つずら峠の高磯山崩壊碑	徳島県	那賀町（上那賀町）	土砂災害 風水害	明治25年（1892）7月25日午前11時から正午頃、台風による暴風雨で、上那賀町大戸の高磯山（611m）が崩壊した。崩壊した土砂は那賀川を越えて対岸の春森まであふれ、荒谷・春森の人家十数戸、60余名が埋没した。土砂は那賀川の流れをせき止め、天然ダムを形成したが、せき止められてから2日後の27日午後4時頃、天然ダムは決壊した。直ちに鉄砲、半鐘、太鼓などで通報が行われたが、大水が下流を襲い、鷲敷町など各地に大きな被害をもたらした。 （寺戸恒夫「徳島県高磯山崩壊と貯水池防災」による） つずら峠に碑が建立されている。		徳島337
徳島44	春森の高磯山崩壊慰霊碑	徳島県	那賀町（上那賀町）	土砂災害 風水害	明治25年（1892）7月25日、台風による豪雨のため、高磯山（標高611m）が崩壊し、流出した約400万立米の土砂は対岸の春森、久米鍛治の集落をのみ込み、崩壊家屋15戸、死者65人の被害が出た。崩壊した土砂は那賀川を堰き止め、総湛水量7,250立米（長安口ダム貯水量の約1.5倍）の天然ダムを形成し、湛水域の最上流点は13km上流の上那賀町白石、木沢村追立にまで及んだ。7月27日には天然ダムが決壊したが、下流へは鉄砲や太鼓によって次々に知らされたため、死者は3人にとどまった。 木頭森林組合前に慰霊碑が建立されている。		徳島7018

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島45	志和岐公民館前の震災碑	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	安政元年（1854）11月5日、南海地震が発生した。この冊子には、松茂町の春日神社「敬渝碑」、徳島市の蛭子神社「百度石」、佐那河内村の長願寺「扁額」、小松島市の豊浦神社「石碑」、阿南市椿の八幡神社「常夜灯台石」、那賀町谷内の妙法寺「庚申塔」、美波町志和岐の「震災碑」、東由岐浦の「修堤碑」、木岐の木岐王子神社「石灯籠」、牟岐町の「大震潮記念碑」、出羽島観栄寺「石碑」、海陽町浅川の天神社「石碑」、観音堂石段「津波襲来地点石標」等に関する情報が掲載されている。		徳島7252
徳島46	東由岐の康暦碑	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	康安元年／正平16年（1361）6月18日、大地震が発生し、津波により由岐に大きな被害が出た。太平記には、「阿波の雪湊（由岐みなと）と言う浦には俄に大山の如くなる潮張り来って在家1,700余宇、悉く引潮に連て海底に沈しかば、家々に在る所の僧俗男女、牛馬鶏犬一も不残底のみくずとなりにけり」と記されている。 東由岐イヤ谷の中腹には、地震から20年後の康暦2年（1380）に建立された慰霊碑が立っている。		徳島111
徳島47	貞治の碑	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	康安元年／正平16年（1361）6月18日、大地震が発生し、津波により由岐に大きな被害が出た。太平記には、「阿波の雪湊（由岐みなと）と言う浦には俄に大山の如くなる潮張り来って在家1,700余宇、悉く引潮に連て海底に沈しかば、家々に在る所の僧俗男女、牛馬鶏犬一も不残底のみくずとなりにけり」と記されている。 西の地の子安地蔵内には貞治6年（1367）につくられた碑がある。		徳島111
徳島48	東由岐公民館前の東由岐浦修堤碑	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	安政元年（1854）11月4日と5日、地震が発生し、津波が襲来した。本書では安政地震津波碑として、志和岐公民館前の碑、東由岐公民館前の東由岐浦修堤碑、木岐白浜の王子神社前の灯籠、牟岐小学校横の大震潮記念碑、出羽島の観栄寺の碑、浅川の天神社の碑、熟田峠の地蔵尊、鞆浦の海嘯碑、北沖ノ洲の蛭子神社の百度石、赤石町の豊浦神社の碑、椿町の八幡神社の常夜燈、松茂町中喜来の春日神社の碑に関する情報を掲載している。		徳島238

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島49	東由岐公民館前の室戸台風災害記念碑	徳島県	美波町（由岐町）	風水害 高潮	昭和9年（1934）9月21日午前5時過ぎ、風速50～60mの台風が襲来し、高潮が発生した。被害は家屋の倒壊156戸、流失13戸、船舶の流出・破損348隻、学校の倒壊2校、その他山林、田畑、橋梁、道路の決壊・流出等に及んだ。東由岐公民館前庭には室戸台風災害記念碑が建っている。		徳島4484
徳島50	東由岐天神社下の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、大地震が発生し、約10分後に津波が来襲して大きな被害を受けた。町役場保存「震災関係書類」によると、旧三岐田町分の被害は死者8人、重軽傷者24人、家屋の流失48戸、全壊66戸、半壊220戸、床上浸水618戸、床下浸水70戸、船舶の流出39隻などであった。南海地震の体験者数名による記録が収録されている。なお、この災害を後世に伝えるため、昭和57年9月、町教育委員会が町内4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱を建設した。 東由岐天神社下、由岐保育所前、西由岐公民館前、木岐公民館前の4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱が建立されている。		徳島113
徳島51	由岐保育所前の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、大地震が発生し、約10分後に津波が来襲して大きな被害を受けた。町役場保存「震災関係書類」によると、旧三岐田町分の被害は死者8人、重軽傷者24人、家屋の流失48戸、全壊66戸、半壊220戸、床上浸水618戸、床下浸水70戸、船舶の流出39隻などであった。南海地震の体験者数名による記録が収録されている。なお、この災害を後世に伝えるため、昭和57年9月、町教育委員会が町内4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱を建設した。 東由岐天神社下、由岐保育所前、西由岐公民館前、木岐公民館前の4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱が建立されている。		徳島113

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島52	西由岐公民館前の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、大地震が発生し、約10分後に津波が来襲して大きな被害を受けた。町役場保存「震災関係書類」によると、旧三岐田町分の被害は死者8人、重軽傷者24人、家屋の流失48戸、全壊66戸、半壊220戸、床上浸水618戸、床下浸水70戸、船舶の流出39隻などであった。南海地震の体験者数名による記録が収録されている。なお、この災害を後世に伝えるため、昭和57年9月、町教育委員会が町内4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱を建設した。 東由岐天神社下、由岐保育所前、西由岐公民館前、木岐公民館前の4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱が建立されている。		徳島113
徳島53	木岐公民館前の南海地震津浪最高潮位標示石柱	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、大地震が発生し、約10分後に津波が来襲して大きな被害を受けた。町役場保存「震災関係書類」によると、旧三岐田町分の被害は死者8人、重軽傷者24人、家屋の流失48戸、全壊66戸、半壊220戸、床上浸水618戸、床下浸水70戸、船舶の流出39隻などであった。南海地震の体験者数名による記録が収録されている。なお、この災害を後世に伝えるため、昭和57年9月、町教育委員会が町内4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱を建設した。 東由岐天神社下、由岐保育所前、西由岐公民館前、木岐公民館前の4箇所に南海地震津浪最高潮位標示石柱が建立されている。		徳島113
徳島54	木岐の八幡神社の石段	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	嘉永7年（1854）11月4日朝5ツ時に大地震があり、木岐では人々は大汐が来ることを用心して夜を明かした。翌5日夕7ツ時（午後4時）に大地震が起こり、間もなく高さ3丈余の津波が襲来した。三岐田木岐の元日堂記録によると、津波は八幡神社の上の石段の下より3つ目まで達し、延命寺の石段はおよそ8歩浸水した。また、三岐田町の濱名家記録によると、津波の高さは2丈余で、浦の全戸数220戸のうち残った戸数は20戸に過ぎず、延命寺、眞福寺は無事であったが、髙波は大師庵に至り、死者10人などの被害が出た。		徳島541

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島55	木岐の延命寺の石段	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	嘉永7年（1854）11月4日朝5ツ時に大地震があり、木岐では人々は大汐が来ることを用心して夜を明かした。翌5日夕7ツ時（午後4時）に大地震が起こり、間もなく高さ3丈余の津波が襲来した。三岐田木岐の元日堂記録によると、津波は八幡神社の上の石段の下より3つ目まで達し、延命寺の石段はおよそ8歩浸水した。また、三岐田町の濱名家記録によると、津波の高さは2丈余で、浦の全戸数220戸のうち残った戸数は20戸に過ぎず、延命寺、眞福寺は無事であったが、髙波は大師庵に至り、死者10人などの被害が出た。		徳島541
徳島56	木岐白浜の王子神社前の灯籠	徳島県	美波町（由岐町）	地震・津波	安政元年（1854）11月4日と5日、地震が発生し、津波が襲来した。本書では安政地震津波碑として、志和岐公民館前の碑、東由岐公民館前の東由岐浦修堤碑、木岐白浜の王子神社前の灯籠、牟岐小学校横の大震潮記念碑、出羽島の観栄寺の碑、浅川の天神社の碑、熟田峠の地蔵尊、鞆浦の海嘯碑、北沖ノ洲の蛭子神社の百度石、赤石町の豊浦神社の碑、椿町の八幡神社の常夜燈、松茂町中喜来の春日神社の碑に関する情報を掲載している。		徳島238
徳島57	大牟岐田の児童公園の昭和南海地震記念碑	徳島県	牟岐町	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海道地震に伴う津波により、牟岐町の被害は住家の流失109戸、倒壊165戸、死者52人、重傷9人、船舶の流失91隻、田畑の流失40町、浸水46町、橋梁の流失6箇所などに及んだ。牟岐町では南海道大地震・大津波から50周年にあたり、南海道地震津波最高潮位標識や南海震災史碑を建立するとともに、地震津波を体験した人々の話や手記を記録した。本書には、南海道地震津波の体験談等が掲載されている。 大牟岐田の児童公園には南海震災史碑及び昭和南海地震記念碑が建立されている。		徳島223

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島58	大牟岐田の児童公園の南海震災史碑	徳島県	牟岐町	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海道地震に伴う津波により、牟岐町の被害は住家の流失109戸、倒壊165戸、死者52人、重傷9人、船舶の流失91隻、田畑の流失40町、浸水46町、橋梁の流失6箇所などに及んだ。牟岐町では南海道大地震・大津波から50周年にあたり、南海道地震津波最高潮位標識や南海震災史碑を建立するとともに、地震津波を体験した人々の話や手記を記録した。本書には、南海道地震津波の体験談等が掲載されている。 大牟岐田の児童公園には南海震災史碑及び昭和南海地震記念碑が建立されている。		徳島223
徳島59	牟岐小学校前の大震潮記念碑	徳島県	牟岐町	地震・津波	安政元年（1854）11月4日朝辰の下刻（午前9時頃）、大地震があり、5日夜明けまで5、6度揺れ、人々は林藪に逃げる。5日午後3時頃と8時頃に大地震があり、それに伴う津波も大規模で、西牟岐浦では175戸全戸が流失するなど大きな被害が出た。津波の高さは3丈余りで、山々の麓に差し込んだ汐先は5、6丈にも見えたという。出羽島津波に関する貞之助の記録には、津波の大きさは島を引き込むかと思うほどであったことが記されている。 牟岐小学校前には、安政地震のことを記した大震潮記念碑が建立されている。		徳島105
徳島60	牟岐小学校前の昭和南海地震記念碑	徳島県	牟岐町	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海道地震に伴う津波により、牟岐町の被害は住家の流失109戸、倒壊165戸、死者52人、重傷9人、船舶の流失91隻、田畑の流失40町、浸水46町、橋梁の流失6箇所などに及んだ。牟岐町では南海道大地震・大津波から50周年にあたり、南海道地震津波最高潮位標識や南海震災史碑を建立するとともに、地震津波を体験した人々の話や手記を記録した。本書には、南海道地震津波の体験談等が掲載されている。 牟岐小学校前には昭和南海地震の碑及び最高潮位の石柱が建立されている。		徳島223

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島61	牟岐小学校前の南海地震津波最高潮位碑	徳島県	牟岐町	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海道地震に伴う津波により、牟岐町の被害は住家の流失109戸、倒壊165戸、死者52人、重傷9人、船舶の流失91隻、田畑の流失40町、浸水46町、橋梁の流失6箇所などに及んだ。牟岐町では南海道大地震・大津波から50周年にあたり、南海道地震津波最高潮位標識や南海震災史碑を建立するとともに、地震津波を体験した人々の話や手記を記録した。本書には、南海道地震津波の体験談等が掲載されている。 牟岐小学校前には昭和南海地震の碑及び最高潮位の石柱が建立されている。		徳島223
徳島62	浅川天神社の折損鳥居	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	慶長9年（1604）12月16日、南海地震が発生した。この冊子には、慶長南海地震に関する石碑等として、海陽町浅川の天神社「折損鳥居」、鞆浦の大岩「慶長・宝永地震津波碑」に関する情報が掲載されている。		徳島7250
徳島63	浅川天神社の南海大地震記念碑	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、紀伊半島南西沖を震源とする南海大地震が発生した。地震後10分余で津波の第一波が襲来し、15分～20分の周期で第二波、第三波が襲来した。津波の最高水位は、観音堂では石段の下から13段目まで、天神社では石段の最上まで（いずれも路面上6尺5寸）まで達した。浅川村での被害は家屋の流失158戸、倒壊187戸、田流失300反、畑流失285反、船舶の流失80隻、大破20隻、死者66人、重軽傷者37人、行方不明者17人などであった。遭難者体験談が掲載されている。 浅川天神社に南海大地震記念碑が建立されている。		徳島221

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島64	浅川天神社にある安政の津波碑文碑	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	嘉永7年（1854）11月4日、M8.4地震、津波。（「宿命の浅川港」による）なお、この年の11月27日に、嘉永から安政に改元されたため、嘉永7年の地震は通常、安政地震と呼ばれる。 浅川天神社境内にある安政地震の碑には、11月4日午前8時頃地震が起こり、10時頃には汐が狂ったように道路まで打ち込んできたので、人々が山上に逃げ登ったこと、翌5日午後4時頃大地震が起こり、その後高さ9m程の大波が射った矢のような早さで打ち寄せ、その夜は大汐が何度も襲ってきたことなどが記されている。		徳島155
徳島65	大歳神社前の南海地震津波最高潮位碑	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分地震が発生し、その十数分後に津波の第一波が押し寄せ、さらに十数分間隔で第二波、第三波が襲来した。典型的なV字湾である浅川湾では壊滅的な被害を受け、「徳島県災異誌」によると、浅川の被害は死者85人、負傷者80人、家屋の流失185戸、全壊161戸、半壊169戸、床上浸水85戸、船舶流失80隻、田畑流失62町歩などであった。なお、鞆奥町と川東村ではほとんど被害が出ていない。 大歳神社前に津波最高潮位碑が建立されている。		徳島147
徳島66	浅川観音堂の宝永ノ津浪の碑	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日、M8.4地震、津波。（「宿命の浅川港」による） 観音堂石像地蔵尊の台座には、地震後9m程の大潮が村を襲い、在家一軒も残らず海底に引落し、140余人が溺死した旨が記されている。 浅川観音堂には宝永ノ津浪の碑が建立されている。		徳島154

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島67	観音堂石段の津波襲来地点石標	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分地震が発生し、その十数分後に津波の第一波が押し寄せ、さらに十数分間隔で第二波、第三波が襲来した。典型的なV字湾である浅川湾では壊滅的な被害を受け、「徳島県災異誌」によると、浅川の被害は死者85人、負傷者80人、家屋の流失185戸、全壊161戸、半壊169戸、床上浸水85戸、船舶流失80隻、田畑流失62町歩などであった。なお、鞆奥町と川東村ではほとんど被害が出ていない。 浅川観音堂石段には、安政南海地震と昭和南海地震の時の津波襲来地点を示す石標が建立されている。		徳島147
徳島68	震災後50年南海道地震津波史碑	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、紀伊半島南西沖を震源とする南海大地震が発生した。地震後10分余で津波の第一波が襲来し、15分～20分の周期で第二波、第三波が襲来した。津波の最高水位は、観音堂では石段の下から13段目まで、天神社では石段の最上まで（いずれも路面上6尺5寸）まで達した。浅川村での被害は家屋の流失158戸、倒壊187戸、田流失300反、畑流失285反、船舶の流失80隻、大破20隻、死者66人、重軽傷者37人、行方不明者17人などであった。遭難者体験談が掲載されている。 海陽町浅川出張所前には震災後50年南海道地震津波史碑が建立されている。		徳島221
徳島69	浅川出張所前の南海地震津波最高潮位碑	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分に大地震、その10分余の後に津波が襲来した。この南海大地震は、過去浅川村を襲った地震の中でも最大のものであった。被害は、死者85人、家屋の流失185戸、全壊161戸、半壊169戸、船舶流失80隻であった。津波の高さは天神社の石垣に示されている。詳細は浅川村震災誌編集委員会「南海大地震浅川村震災誌」を参照。 海陽町浅川出張所前に南海地震最高津波潮位碑が建立されている。		徳島146

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島70	御崎神社の大地震津浪記碑	徳島県	海陽町（海南町）	地震・津波	嘉永7年（1854）11月4日、M8.4地震、津波。（「宿命の浅川港」による）なお、この年の11月27日に、嘉永から安政に改元されたため、嘉永7年の地震は通常、安政地震と呼ばれる。 浅川天神社境内にある安政地震の碑には、11月4日午前8時頃地震が起こり、10時頃には汐が狂ったように道路まで打ち込んできたので、人々が山上に逃げ登ったこと、翌5日午後4時頃大地震が起こり、その後高さ9m程の大波が射った矢のような早さで打ち寄せ、その夜は大汐が何度も襲ってきたことなどが記されている。 浅川の御崎神社に安政地震の碑が建立されている。		徳島155
徳島71	保瀬大崩壊の旧碑	徳島県	海陽町（海南町）	土砂災害	明治25年（1892）7月25日午前10時頃、川上村大字平井の保瀬の右岸山上が大崩壊した。山の土砂が海部川を堰き止め、洪水は逆流し、寒ヶ瀬一帯は濁流に襲われた。た。この大崩壊のため、埋没4戸、洪水による流失8戸、死者47人を出した。この災害は、大戸の崩壊とともに徳島県下の山岳崩壊中特筆すべきものである。（「海部郡誌」による） 平井には保瀬の崩壊に関する碑が建立されている。		徳島544
徳島72	保瀬大崩壊の碑	徳島県	海陽町（海南町）	土砂災害	明治25年（1892）7月25日午前10時頃、川上村大字平井の保瀬の右岸山上が大崩壊した。山の土砂が海部川を堰き止め、洪水は逆流し、寒ヶ瀬一帯は濁流に襲われた。た。この大崩壊のため、埋没4戸、洪水による流失8戸、死者47人を出した。この災害は、大戸の崩壊とともに徳島県下の山岳崩壊中特筆すべきものである。（「海部郡誌」による） 平井には保瀬の崩壊に関する碑が建立されている。		徳島544
徳島73	奥浦の楠神社の治水記念碑	徳島県	海陽町（海部町）	風水害	明治23年（1890）、念願の奥浦大堤防が完成した秋、大雨が続き海部川が氾濫して、奥浦大堤防の対岸の川東・川西村で浸水家屋175戸、冠水田畑256町歩余の被害が出た。かねてから奥浦大堤防築造に反対していた川東村民は、県知事に撤去を要請した。県知事は撤去の議案を県会に提出したが、県会は否決した。しかし、結局、明治25年の保瀬切れによる水害を契機として、奥浦大堤防は取り払われることになった。 奥浦の楠神社には奥浦堤防の完成を記す治水記念碑が建立されている。		徳島1729

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
徳島74	鞆浦海嘯記碑	徳島県	海陽町（海部町）	地震・津波	安政元年（1854）11月、大津波。鞆浦の路傍に鞆浦海嘯記がある。善称寺九代の住職祐深師の手記に、この頃数度の地震津波の状況が詳記されている。		徳島97
徳島75	鞆浦の大岩慶長碑	徳島県	海陽町（海部町）	地震・津波	慶長9年（1604）、大地震・大津波。鞆浦北町の路傍にある高さ1丈、径1.2～1.8丈の砂岩の碑文が刻まれている。碑文には、慶長9年12月16日亥の刻（午後10時）に大海三度鳴り、高さ10丈の逆浪が7度来たため、男女100余人が海に沈んだので、後世に伝える旨が記されている。		徳島107
徳島76	鞆浦の大岩宝永碑	徳島県	海陽町（海部町）	地震・津波	宝永4年（1707）、大津波。鞆浦の大岩の碑文には、宝永4年10月4日未時（午後2時）地震が起こり、1丈余りの津波が三度押し寄せたが、一人の死者も出なかったのは、あらかじめ津波に備えていたからだろうなどと記されている。		徳島108

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川1	相生坂元の災害復旧工事完工碑	香川県	東かがわ市（引田町）	風水害	昭和36年（1961）10月26日～27日、低気圧が発達しながら四国東部を通り北東に進んだため、引田町は雨量331ミリの集中豪雨に見舞われた。第二室戸台風の被害を受けていた小海川をはじめ、河川は各所で氾濫し、堤防の決壊、橋の流出が続出した。山崩れ、家屋の浸水などが相次ぎ、道路の冠水、線路の浸水などで、交通機関は不通となった。また、稲束50haを流失したのをはじめ、農作物の被害が甚大であった。小・中学校は臨時休校となった。（香川県、高松気象台、引田町等の資料による） 災害復旧工事は昭和36年～41年に行われ、完工碑が相生坂元の国道11号海岸側に建てられている。		香川918
香川2	馬宿川の記念碑「豊潤」	香川県	東かがわ市（引田町）	風水害	昭和28年（1953）9月25日、テス台風（台風13号）により、引田町の雨量は450.1ミリに達し、小海川堤防は決壊寸前、別惣川は大洪水となった。また、馬宿川の堤防が100mにわたり決壊し、床上浸水160戸、床下浸水562戸、田畑冠水372ha、道路損壊数箇所及び大川橋・御幸橋の流失という被害を出した。国鉄引田～相生駅間は不通となった。ため池は決壊の危険にさらされ、川股池の流域には緊急避難命令が出された。引田町に災害救助法が適用された。（香川県、高松気象台、引田町等の資料による） 馬宿川堤防の災害復旧工事が昭和28年～34年に行われ、記念碑「豊潤」が馬宿川西側堤防の道路脇に立てられている。		香川3565
香川3	笠松地区のあの日を忘れない碑	香川県	東かがわ市	風水害 土砂災害	平成16年（2004）10月20日昼前、台風23号により、県東部の山間部を中心に激しい雨となり、夕方まで降り続いた。1時間雨量は前山で125ミリ、日下峠で116ミリを記録した。このため、土砂災害が東讃を中心に多発し、11人が犠牲になり、このうち土砂崩れのため東かがわ市、さぬき市で5人が死亡した。香川県では災害対策本部を設置して対応に当たった。 東かがわ市水主（みずし）の笠松地区には、平成16年台風23号に関する「あの日を忘れない碑」が建立されている。		香川1426

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川4	白鳥湛水防除事業竣工之碑	香川県	東かがわ市（白鳥町）	地震・津波	昭和21年（1946）、南海地震による地盤沈下のため、白鳥の松原は浸蝕され、東部の新川流域の耕地も低地と化し、海水が浸入するようになった。このため、流域の排水不良は言うに及ばず、数十糎の降雨でも田畑の湛水が甚だしく、住居は床下浸水となることを常とするようになった。（「白鳥湛水防除事業竣工之碑」の碑文による）		香川1499
香川5	西山の悲願地蔵	香川県	東かがわ市（白鳥町）	風水害	慶応2年（1866）8月1日～8日、暴風雨が続いた。白鳥町では、湊川上流の福栄西山橋土手堤防が決壊した記録が残っている。西山字新田面の県道端の路傍にある悲願地蔵には、慶応2年8月7日夜四ツ時（午後10時）に稀に見る洪水により堤防が崩れ、流家60棟、死者11人などの被害が出た旨が記されている。		香川3969
香川6	田之口池碑	香川県	東かがわ市（白鳥町）	風水害 土砂災害	昭和49年（1974）7月6日、台風8号による集中豪雨のため、雨量は1時間に65ミリ、16時間に385ミリに達した。このため、各地で山崩れ、河川の氾濫、堤防の決壊等が多数起こった。田ノ口池でも堤防の下流側面全域に崩壊が生じ、特に西約30mの間は結果に瀕したため、23時に避難命令が発令され、田高田地区民は白鳥中学校に避難した。田ノ口池の堤防の災害復旧工事は昭和49年12月から昭和50年3月にかけて実施された。（田ノ口池の「災害復旧記念碑」の碑文による）		香川1500

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川7	田之口池堤防の災害復旧記念碑	香川県	東かがわ市（白鳥町）	風水害 土砂災害	昭和49年（1974）7月6日、台風8号による集中豪雨のため、雨量は1時間に65ミリ、16時間に385ミリに達した。このため、各地で山崩れ、河川の氾濫、堤防の決壊等が多数起こった。田ノ口池でも堤防の下流側面全域に崩壊が生じ、特に西約30mの間は結果に瀕したため、23時に避難命令が発令され、田高田地区民は白鳥中学校に避難した。田ノ口池の堤防の災害復旧工事は昭和49年12月から昭和50年3月にかけて実施された。（田ノ口池の「災害復旧記念碑」の碑文による）		香川1500
香川8	忘れじの標碑	香川県	さぬき市（津田町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日～13日、台風17号が九州南西海上に停滞したため、記録的な豪雨をもたらした。8日～13日の降雨量は津田町で982ミリを観測した。津田町では北山地区で山崩れで死者8人の被害が出たほか、溜池・河川の決壊、田畑の流失、土砂流入、民家の全壊、浸水等の甚大な被害を受けた。被害は死者8人、重傷者1人、軽傷者3人、全壊15戸、半壊14戸、床上浸水309戸、床下浸水422戸、田の流失・埋没20ha、冠水70ha、畑の流失・埋没5ha、冠水1ha等に及んだ。体験記が掲載されている。 松尾地区には「忘れじの標」が建立されている。		香川1419
香川9	忘れじの標横の慰霊碑	香川県	さぬき市（津田町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日～13日、台風17号が九州南西海上に停滞したため、記録的な豪雨をもたらした。8日～13日の降雨量は津田町で982ミリを観測した。津田町では北山地区で山崩れで死者8人の被害が出たほか、溜池・河川の決壊、田畑の流失、土砂流入、民家の全壊、浸水等の甚大な被害を受けた。被害は死者8人、重傷者1人、軽傷者3人、全壊15戸、半壊14戸、床上浸水309戸、床下浸水422戸、田の流失・埋没20ha、冠水70ha、畑の流失・埋没5ha、冠水1ha等に及んだ。体験記が掲載されている。 松尾地区には「忘れじの標」の横に慰霊碑が建立されている。		香川1419

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川10	鴨庄新開の水害記念碑	香川県	さぬき市（志度町）	風水害	明治17年（1884）8月25日夜、寒川郡鴨部下荘村で、烈風にわかに起こり、波涛狂奔し堤防を決壊す。その勢い奔馬の如く襲来し、家屋は流され、人はおぼれ、浜に打ちあげられた魚のようであった。稲や甘藷など作物の被害を被らないものはなかったが、幸いに人命には異常はなかった。暴風狂らん中はまさに窮乏のどん底に陥った。ここにおいて村民一同相謀り金穀を集めて被害の救済に当たった。このことが聖聞に達して下賜金を賜い、その難を救恤された。（「水害記念碑」による、原文は漢書） 鴨庄新開の鴨部川沿いに「水害記念碑」が建立されている。		香川5494
香川11	竹内熊太郎頌徳碑	香川県	さぬき市（志度町）	風水害	大正元年（1912）9月21日午後4時頃から23日午前5時頃まで、連続してどしゃ降りの豪雨となり、鴨部川にかかる広瀬橋、乙井橋、地蔵川橋、鴨庄橋などの橋が流され、川田、中空、西山、鳥田、尻切、川西、そうめんや土堤、小山土堤などが決壊し、濁流は鴨部、鴨庄の田野に流れた。民家は流され、避難しそこねた人々は屋根にしがみついて救いを求めた。鴨部では伝馬船を雇い入れ、また鴨庄では漁舟を駆り出して避難や安否確認等を行った。水位は、鴨部小学校では床上約1.5m、鴨庄小学校では1.8mに及んだ。 水害後、竹内熊太郎が鴨部川に土手を築いた。鴨庄橋東詰に頌徳碑が建立されている。		香川3601
香川12	庵治漁港の平成16年高潮浸水位プレート	香川県	高松市（庵治町）	高潮	平成16年（2004）、台風16号の来襲により高潮被害が発生した。これまでの最高潮位を大きく上回り、305世帯が床上・床下浸水の被害を受けた。これは、町の全世帯の約15%に相当する。この高潮被害の教訓から、平成17年に高潮警戒区域図が作成された。 庵治漁港に平成16年高潮浸水位プレートが設置されている。		香川4734

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川13	新川河川激特事業竣工記念碑	香川県	高松市	風水害	昭和62年(1987)10月16日～17日、台風19号により、新川水系の新川及びその支流の吉田川流域で、三木町及び高松市亀田町・前田東町・東山崎町・春日町で約870haにわたって浸水し、浸水家屋も4,216戸に上った。このため、香川県では、新川水系で継続中であった中小河川改修事業の計画の一部見直しを行い、河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)による改修事業を実施することにした。 新川河口付近に新川河川激特事業竣工記念碑が建立されている。		香川5829
香川14	扇町の平成16年高潮浸水位プレート	香川県	高松市	高潮	平成16年(2004)8月30日17時頃、香川県は西部から台風16号の暴風域に入り始め、夜遅くには大潮の満潮時と重なったこともあり、高潮と暴風により大きな被害が発生した。高松検潮所の最高潮位は2.46mを観測した(既往最高潮位1.94m)。また、最大瞬間風速は高松地方気象台で30.7m／秒を記録した。被害は死者3人、軽傷6人、住家の全壊1棟、半壊10棟、一部損壊235棟、床上浸水5,872棟、床下浸水16,088棟のほか、公共土木施設等に及んだ。高松市他5市7町に災害救助法が適用された。 高松市扇町には平成16年高潮浸水位プレートが設置されている。		香川5834
香川15	鹿の井出水記念碑	香川県	高松市	渇水	保安3年(1122)、讃岐国は大日照りで、稲は枯れ、草木もしおれてしまうほどであった。この時の日照りに関して、鹿の井出水の伝説がある。人々が水不足で困っているところに、一匹の鹿が西南に走り、今の出水「鹿の井」の所までくると、立ち止まり前足で2尺程掘ると、清水が湧き出してきたというものである。保安5年に、太田、多肥の人々は鹿が掘った泉を掘り広げ、飲料、灌漑水として使うようになったという。		香川1283

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川16	船岡池之碑	香川県	高松市	渇水	明治11年(1878)、船岡池の上下流の農民に水論が起こった。明治13年に大審院の判決が下って、下流の者が敗訴となった。 船岡池の堤防に「船岡池之碑」が建立されており、船岡池をめぐる水論について記されている。		香川1389
香川17	三郎池の増築記念碑	香川県	高松市	渇水	大正2年(1913)、干ばつのため、三郎池の水配分をめぐって大紛争が起きた。三郎池の貯水量が2割まで減った時、下流の木太村・林村の農民が押しかけて水を流すように迫ったが、上流の三谷側は「最後の水は敷き村の権利だ」と主張して譲らず、堤防上に双方多数の農民が集まって紛糾を極めた。結局、大正12年(1923)に三郎池普通水利組合が結成され配水の適正化が図られるとともに、三郎池嵩上工事が県営用排水幹川改良事業として昭和4年(1929)3月に着工され、同6年3月に完成した。		香川1551
香川18	三郎池の導水路竣工記念碑	香川県	高松市	渇水	大正2年(1913)、干ばつのため、三郎池の水配分をめぐって大紛争が起きた。三郎池の貯水量が2割まで減った時、下流の木太村・林村の農民が押しかけて水を流すように迫ったが、上流の三谷側は「最後の水は敷き村の権利だ」と主張して譲らず、堤防上に双方多数の農民が集まって紛糾を極めた。結局、大正12年(1923)に三郎池普通水利組合が結成され配水の適正化が図られるとともに、三郎池嵩上工事が県営用排水幹川改良事業として昭和4年(1929)3月に着工され、同6年3月に完成した。		香川1551

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川19	三郎池改修工事記念碑	香川県	高松市	渇水	大正2年(1913)、干ばつのため、三郎池の水配分をめぐって大紛争が起きた。三郎池の貯水量が2割まで減った時、下流の木太村・林村の農民が押しかけて水を流すように迫ったが、上流の三谷側は「最後の水は敷き村の権利だ」と主張して譲らず、堤防上に双方多数の農民が集まって紛糾を極めた。結局、大正12年(1923)に三郎池普通水利組合が結成され配水の適正化が図られるとともに、三郎池嵩上工事が県営用排水幹川改良事業として昭和4年(1929)3月に着工され、同6年3月に完成した。		香川1551
香川20	鰹宇神社碑	香川県	高松市	渇水	昭和14年(1939)は、明治27年以来の大干ばつであった。6月12日に梅雨に入り、6月26日に四ヶ池のゆる抜きで田植えが始まったが、神内池、松尾池、城池、公渕池は滅水し、無水状態となった。7月26日には鰹宇神社で雨乞い祈願を行ったが、8月1日には平田池が無水状態になったので、各地で井戸堀などが行われた。なお、小村では大干ばつにもかかわらず、耕作者の理解と計画的な創意工夫、18回にも及ぶ協議により、全体として豊作になった。		香川1350
香川21	奈良須池の記念碑	香川県	高松市	渇水	寛文8年(1668)、大干ばつに見舞われ、奈良須池辺りの地域の被害は激甚であったという。この年には、藩主自ら百々淵(香川町鮎滝)の竜神に雨を祈願し、ひそかに領内の被災地を検分して回った。この時、主君に随行したのが山崎村(現高松市西山崎町)の御蔵奉行前田与三兵衛であり、与三兵衛は惨状を目撃して、奈良須池の築造を決意した。奈良須池は、与三兵衛と農民たちの苦役と奉仕によって、寛文10年(1670)に完成した。		香川1545
香川22	高塚山頂上の竜王神社と矢延平六神社	香川県	高松市(香川町)	渇水	昭和14年(1939)、大干ばつ。この時には、新池神社の二宮神官が一週間高塚山の山上でお籠もりし雨乞い祈願をした。その期間中、新池掛かりの水親は交代で社前で大火焚きをし、満願の日には農家の人たちが松明を持って峰を歩いた。これは山で雨乞いの火を焚くと竜が天に昇り、雨を降らせるという竜神信仰によるものである。		香川1549

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川23	新池築造之碑	香川県	高松市（香川町）	渇水	昭和14年（1939）、大干ばつ。この時には、新池神社の二宮神官が一週間高塚山の山上でお籠もりし雨乞い祈願をした。その期間中、新池掛かりの水親は交代で社前で大火焚きをし、満願の日には農家の人たちが松明を持って峰を歩いた。これは山で雨乞いの火を焚くと竜が天に昇り、雨を降らせるという竜神信仰によるものである。		香川1549
香川24	田渡池由来之碑	香川県	高松市（香川町）	渇水	寛政6年（1794）、大干ばつに見舞われ、芦脇井関の少し下流にある一ノ井堰掛かりの岡・由佐・横井・池内の4ヶ村は用水不足になった。その原因は、芦脇井関から導水している井手を深く掘り下げたため、一ノ井関の水廻りが悪くなったのである。この芦脇井関掛かりと一ノ井関掛かりの水利紛争を解決するため、藩では寛政8年から既存の田渡池を嵩上げして規模を大きくする工事を行い、同10年から田渡池の水の配分を開始した。これによって芦脇井関をめぐる川東と川西の水争いは一応小康状態になった。		香川1548
香川25	蛸山大崩壊の慰霊碑	香川県	高松市（塩江町）	風水害 土砂災害	大正元年（1912）9月22日から23日に大型台風が紀伊水道を北上し、塩江町に最大の被害を与えた。雨量は22日午前零時から一昼夜の間に173.6ミリに及んだ。風は22日午後4時から北東に変わり、その後一時弱くなったが、11時頃から東に変わった。県下の死者・行方不明者は179人に達し、流失家屋197戸、崩壊家屋840戸、浸水家屋9,589戸に及んだ。この台風で、安原上西村荒の蛸山が崩れて、5戸が押しつぶされ、26人の死者を出した。 蛸山大崩壊の慰霊碑が内場ダムの貯水池西側に建立されている。		香川1130

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川26	内場池立退者望郷之碑	香川県	高松市（塩江町）	渇水	昭和14年（1939）、香川県は大干ばつに見舞われ、高松市も農作物に大きな被害が出た。高松市では、水稲作付予定面積125町のうち、3町が植え付け未了となり、干害による損害見込額は水稲8,626円、果樹1,500円、蔬菜10,470円、除虫菊196円の合計20,792円となった。用水に乏しい香川郡・高松市では、以前から内場池築造計画があり、昭和12年には内場池耕地整理組合が組織され、内場池の築造と香東川の農業用水利施設の整備が推進されることになったが、戦争で中断し、その完成は戦後となった。		香川1356
香川27	積徳成仁碑（久保太郎右衛門頌徳碑）	香川県	綾川町（綾南町）	渇水	元禄10年（1697）から、綾南町では連続した干害があり、元禄14年（1701）には270人が餓死しそうになったという。この干害は、久保太郎右衛門が萱原用水を引くきっかけとなった。 萱原には久保太郎右衛門頌徳碑と萱原導水路改修記念碑が建立されている。		香川718
香川28	萱原導水路改修記念碑	香川県	綾川町（綾南町）	渇水	元禄10年（1697）から、綾南町では連続した干害があり、元禄14年（1701）には270人が餓死しそうになったという。この干害は、久保太郎右衛門が萱原用水を引くきっかけとなった。 萱原には久保太郎右衛門頌徳碑と萱原導水路改修記念碑が建立されている。		香川718
香川29	滝宮神社の滝宮念仏踊碑	香川県	綾川町（綾南町）	渇水	昭和4年（1929）、阿野南組により滝宮神社と滝宮天満宮で雨乞い踊りが奉納された。この年は未曾有の渇水で、8月13日に県知事坪井勧吉臨席のもとで雨乞い踊りが奉納され、15日朝には降雨があり、16日には知事がお礼参りに来た。念仏踊りの霊験を県下に示す出来事であったといえよう。		香川735

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川30	城山神社碑	香川県	坂出市	渇水	昭和14年（1939）、梅雨入りより干天続きで未曾有の大干ばつとなった。多度津測候所の降水量は7月28.4ミリ、8月5.3ミリ、坂出では7月15.7ミリ、8月2.8ミリと極めて少なかった。藤岡長敏県知事は、7月23日滝宮天満宮で、8月1日城山神社で雨乞い祈願をし、8月3日には県主催の県下一斉雨乞い祈願を実施した。また、綾歌郡の各町村農会は最寄り山上で20日一斉に雨乞い祈願の大焚き火をした。7月31日現在、綾歌郡の水稲作付予定面積8,202.1町のうち、植付不能地304町、枯死に瀕するもの2,181.8町であった。		香川1536
香川31	雨請天満宮碑	香川県	坂出市	渇水	仁和4年（888）4月、5月雨なし。菅原道真、府中村の城山神社に雨を祈る。（「讃岐通史」による）（香川県の旱魃年表） 城山神社には菅原道真公を祭る雨請天満宮がある。		香川1799
香川32	大窪池の碑	香川県	丸亀市	渇水	正保2年（1645）春から秋まで、雨が降らずに未曾有の干ばつとなった。このため、高松藩主松平頼重は家臣矢延平六らに命じてため池406を築かせたが、その一つが大窪池であった。領内の池は従来の960と合わせて1,366になった。		香川1526
香川33	大窪池ノ宮創建之碑	香川県	丸亀市	渇水	正保2年（1645）春から秋まで、雨が降らずに未曾有の干ばつとなった。このため、高松藩主松平頼重は家臣矢延平六らに命じてため池406を築かせたが、その一つが大窪池であった。領内の池は従来の960と合わせて1,366になった。		香川1526

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川34	矢延翁頌徳碑	香川県	丸亀市（飯山町）	渇水	正保2年（1645）、春から秋まで雨が降らず、未曾有の干ばつとなった。この干ばつを機に、藩主松平頼重は矢延平六らにため池を築かせた。矢延平六がつくった池は、城池、大窪池、楠見池増築、仁池、小津守池、大谷池、新池など100を数えたという。 土器川右岸の滝鼻には、矢延翁頌徳碑が建立されている。		香川742
香川35	土岐六蔵頌徳碑	香川県	丸亀市（綾歌町）	渇水	明治27年（1894）、干ばつにより、水稲が枯死した。土岐六蔵は小津森池の増築を計画し、明治27年9月に着工、翌年3月に竣工した。（「土岐六蔵翁頌徳碑」の碑文による） 綾歌町岡田東に土岐六蔵頌徳碑が建立されている。		香川1503
香川36	岡田久次郎の碑	香川県	丸亀市（綾歌町）	渇水	寛永3年（1626）5月から8月頃にかけて、95日間も雨が降らず、凶作、飢饉となり、多くの村人が死んだ。岡田の大庄屋岡田久次郎は、岡田から8kmもある山中に亀越池を築き、池の水を土器川に流し、これを水路として札の辻の横井まで導き、そこから岡田に通じる堺水路（後の岡田井手）に引き入れて取水する計画を立てた。久次郎はこの計画を西嶋八兵衛に相談し、指導を受けながら、約2年かかって寛永10年（1633）に完成した。 赤坂に岡田久次郎の碑が建立されている。		香川1612
香川37	赤坂の打越下池之碑	香川県	丸亀市（綾歌町）	渇水	文政6年（1823）、大干ばつ。鵜足郡の大庄屋・木村甚三郎は父又左衛門の遺志を受け継いで、打越下池の新築を藩に願い出、請願を続けること4年、文政10年に許されて着工し、同12年に竣工した。工事は高松藩の郷普請で行われ、鵜足郡全域から人夫約65,000人が動員された。（「打越下池の碑文」、「綾歌町史」による） 赤坂に打越下池之碑が建立されている。		香川1518

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川38	二頭出水の標識	香川県	善通寺市	渇水	文化14年(1817)5月から7月にかけて、大干ばつとなった。二頭出水は通常は下流の三吉田村(上吉田村、下吉田村、稲木村)の水田を養っているが、大池が干上がると善通寺領の要請に要請により、輪番で取水する慣行となっていた。この時も寺領側が上吉田村に二頭出水からの取水を申し出たが、三吉田村側は回答を遅らせるなどして寺領の取水を抑えたため水争いとなった。		香川1580
香川39	松尾寺の殉職消防組員慰霊碑	香川県	琴平町	風水害	大正5年(1916)8月1日、風水害により金倉川が氾濫し、堤防の決壊箇所が続出したため、大宮横井の取り除き作業中に、消防組員が濁流にのまれ殉職した。 松尾寺に殉職消防組員慰霊碑が建立されている。		香川2230
香川40	大川堰碑	香川県	まんのう町(満濃町)	渇水	昭和30年(1955)8月、打越池への取り入れ口である札の辻堰で、水利紛争が起こった。土器川の本流が近年しだいに左岸寄りに流れるようになったことを理由に、岡田側が従来の慣行を無視して堰堤を左岸の堤防まで延長したのに対し、吉野側が今で土器川の伏流水を取水していた大宮荒川堰に水が乗らなくなったとして、札の辻堰を壊そうとした。約600人の農民が対峙する中、香川県警が入って紛争の拡大を防いだ。結局、昭和33年1月に大川頭首工に関する協定が成立して、翌34年8月に大川頭首工が竣工した。		香川1522
香川41	松坡長谷川翁功徳之碑	香川県	まんのう町(満濃町)	地震・津波 風水害	安政元年(1854)6月、地震あり。榎井村の庄屋・長谷川喜平太らが数年を費やして改築した満濃池の樋管から水が噴出し、さらに大雨により漏水が増大して防ぐことができなくなった。7月9日夜に満濃池の堤防が決壊し、那珂郡、多度郡の数村の田は川原と化し、家屋、人畜の損害は夥しかった。 満濃池の堤防に松坡長谷川翁功徳之碑が建立されている。		香川2

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川42	真野池記	香川県	まんのう町（満濃町）	風水害	弘仁9年（818）、満濃池が決壊した。満濃池は大宝年間（700年頃）に始めて築かれたが、110年ほどたって決壊したことになる。この時、讃岐の国司・清原夏野は朝廷に対して復旧を歎願した。朝廷は築池の別当として路ノ真人浜継を讃岐に派遣して復旧に当たらせたが、築いては崩れたため工事は一向にはかどらなかったため、国司は再度朝廷に空海を修築の責任者として派遣するよう要請した。朝廷の派遣命令を受けた空海は、民衆たちを指揮し、わずか2ヶ月で満濃池の修築工事を完成させたと言われている。 満濃池の堤防に真野池記が建立されている。		香川5529
香川43	加茂神社の綾子踊碑	香川県	まんのう町（仲南町）	渇水	昭和9年（1934）、干ばつのため、綾子踊りを行った。（「踊り歳控」による）池の水も涸れ、水田は白く乾燥したうえ大きな亀裂が生じた。葉が巻いてしまった稲にどびん水をかけたが、焼け石に水で、池尻の湿田以外の大部分の水田は収穫皆無であった。なお、9月に入ってから雨が多かったため、稲はだめだったが、そばなどの収穫はできた。 加茂神社に綾子踊碑が建立されている。		香川173
香川44	香川用水記念公園の豊潤碑	香川県	三豊市（財田町）	渇水	平成6年（1994）、空梅雨と猛暑のため、長柄ダムの1月～8月の降水量は340ミリで前年の29%に過ぎなかった。町内の一部の地域では稲や庭木が枯死し、夏の祭典「サマーフェスティバル」も中止となった。綾上・綾南の両町長らは滝宮神社で8月6日夜降雨を祈願し、翌7日には雨乞い念仏踊りが奉納された。町内の水稲被害は、植付不能面積が1.3ha余、収穫皆無面積が12.4ha余に及んだ。また、山林では杉・檜等の葉が茶褐色に枯れた。この大渇水は、台風の到来と香川用水の恩恵により凌ぐことができた。		香川672

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川45	勝田池之碑	香川県	三豊市（高瀬町）	渇水	寛文2年（1662）、大干ばつに見舞われた。田はひび割れ、稲は枯死して収穫はゼロであった。ところが、築造から7年間の平屋池を持つ井ノ口新田は、平年作を上回る方策であった。このため、比地大村の百姓は、京極藩に新池築造を願い出て、藩は郡奉行勝田五郎兵衛に新池築造を命じた。これが、寛文6年に完成した勝田池である。 勝田池には勝田池之碑が建立されている。		香川329
香川46	溺死三十三霊之塔	香川県	三豊市（仁尾町）	風水害	明治32年（1899）8月28日、大暴雨風により四国各地は洪水の被害に見舞われた。別子山村からも多数の人々が濁流に押し流され、一部は国領川から瀬戸内海へ出て、数日後、おびただしい流木などとともに33人の死体が仁尾の浜に打ち上げられた。仁尾の人々は、33人の遺体を南の墓地に埋葬し、3回忌に高さ2.3mの供養塔「溺死三十三霊之塔」を建立した。 溺死三十三霊之塔は、仁尾町の南墓地に建立されている。		香川2851
香川47	大谷池碑	香川県	観音寺市（大野原町）	風水害	元文4年（1739）6月5日、暴風雨のため、大谷池の堤防が大破した。このため、萩原村の庄屋・谷治之助、中姫村の喜曽平、武右衛門の3氏が修築を藩主に願い出て許され、同年10月に着工し、寛保元年（1741）4月に竣工した。（「大谷池碑」の碑文による） 大谷池堤に大谷池碑が建立されている。		香川5495
香川48	大谷池副堤復旧記念碑	香川県	観音寺市（大野原町）	風水害	昭和21年（1946）5月、大谷池の副堤が突如決壊して、6人の人命と家財、農地等に甚大な被害を与えた。関係者は戦後物資の不足な時代に4ヶ年の歳月と出役人夫3万人余、事業費2,200万円余により復旧した。（「大谷池副堤復旧記念碑」の碑文による） 大谷池堤に大谷池副堤復旧記念碑が建立されている。		香川5496

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川49	大谷池水害記念の句碑	香川県	観音寺市(大野原町)	風水害	昭和21年(1946)5月9日7時頃、三豊郡の大谷池の堤防が突如決壊して、死者3人、家屋の全壊42戸、半壊95戸、流失46戸、浸水75戸、田畑の冠水60ha等の被害のほか、米俵の浸水、国鉄予讃線の本山－豊浜間の線路浸水があった。なお、決壊当日には雨は降っていなかった。 観音寺市大野原町の頂懸神社の参道前に、「大谷池水害記念の句碑」が建立されている。		香川5350
香川50	大谷池改修記念碑	香川県	観音寺市(大野原町)	風水害	昭和22年(1947)7月、豪雨のため、前年の災害から復旧途上の大谷池の堤防が流失した。しかし、住民の熱意により、大谷池の復旧工事は3年6ヶ月と98,000人余の労役を費やして、昭和25年に完成した。 大谷池本堤中央部には大谷池改修記念碑が建立されている。		香川5508
香川51	井関池の碑	香川県	観音寺市(大野原町)	風水害	寛延2年(1749)7月3日、井関池が決壊した。「井関池由来」によると、前日から雨が降り続き、池水が堤防上を1尺も溢れ、東端の堤防が長さ40間(72m)ほど決壊した。濁流は田畑や家屋を押し流し、死傷者も多く出た。池下の萩原村だけでなく、福田原、柞田、八丁、黒渕などの村々は悲惨であった。井関池の管理責任を持つ平田家は、丸亀藩から対応の遅れをとがめられ、9月に平田家当主は7日間の遠慮(公式の場への出席禁止)、支配人は2週間の閉門を申し渡された。		香川5532
香川52	豊稔池碑	香川県	観音寺市(大野原町)	渇水	大正13年(1924)の夏は空梅雨で、7月に入っても一滴の雨もなく、池は涸渇し飲料水にも事欠く状況であった。このため、新池築造を待望する農民の活動は活発になり、これを受けて田野々池(豊稔池)築造の動きが本格化することになった。県営田野々池築造工事は大正15年3月に起工し、昭和4年11月に竣工した。新池は豊稔池と命名された。 豊稔池堤防上には「豊稔池碑」が建立されている。		香川1514

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川53	落合地区の災害復旧砂防事業竣工碑	香川県	観音寺市（大野原町）	風水害 土砂災害	平成16年（2004）8月17日、台風15号の接近により局地的豪雨に見舞われ、五郷地区では午後2時～3時の時間雨量が54ミリを記録した。夕方、五郷有木落合地区で、氾濫した前田川の濁流が落合自治会館に流れ込み、自主避難していた女性2人が犠牲となった。豪雨は18日も断続的に強く降り続き、五郷地区で全壊1棟、半壊3棟、床上浸水2戸などのほか、ため池の堤防決壊、山腹の土砂崩れなどにより農業、土木にも大きな被害が出た。 落合地区では災害復旧砂防事業が行われた。		香川393
香川54	五郷ダムの記念碑	香川県	観音寺市（大野原町）	風水害	昭和20年（1945）10月8日、台風時に家屋の浸水や田畑の冠水により、多大な被害を蒙り、洪水調節について抜本的な対策が望まれた。また、柞田川に依存する耕地には多くのため池、横井、出水や無数の井戸が点在し、かんがい用水を賄うことは容易なことではなかった。このため、県は観音寺市、大野原町、豊浜町の1市2町を受益地域として、柞田川綜合開発事業を計画し、昭和36年度～39年度に五郷ダムを建設した。 五郷ダム堤防上に記念碑が建立されている。		香川5502
香川55	鶴亀池碑	香川県	観音寺市（豊浜町）	風水害	大正10年（1921）6月、三豊郡和田村の茨谷池の堤防が崩壊した。連日の雨で、各池は満水となり、地盤は軟弱になり、池係りの人や村民が警戒していたが、一瞬の間に堤防が決壊し、白坂川一帯が洪水となった。このため長谷の民家8戸が全壊または流失、半壊・一部破損も数軒あった。また、長谷、道溝などの良田約5町歩が流失、荒廃した。なお、豊浜町と和田村の境界付近は、予讃線の道床が高く築かれているため、大水が防止され、豊浜町の川端・東町の一部に浸水があった程度で済んだ。 茨谷池は現在の鶴亀池である。		香川2871

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川56	姥ヶ懐池の碑	香川県	観音寺市（豊浜町）	風水害	昭和22年（1947）7月9日、熱帯性低気圧が九州南部に上陸、豊予海峡から愛媛県北部を通り、瀬戸内海を東に抜けて進んだため梅雨前線の活動が活発になり、西讃地方に強い雨を降らた。西讃地方の降雨量は200ミリを超え、1時間の最大降雨量は30ミリを越えた。和田村では、増水により吉田川にかかる橋などが流失した。また、姥ヶ懐池の堤防決壊を避けるため、堤防の一部を切り開いて放水したため、梶谷、道溝、直場、岡部の水田が冠水し、学校、役場、民家の一部に床下浸水があった。		香川2874
香川57	山ノ神神社の災害復旧砂防工事碑	香川県	小豆島町（内海町）	風水害 土砂災害	昭和6年（1931）9月18日、豪雨のため山津波が生じ、伊豆川、森庄川、丹波川、吉田川などほとんどの河川が全滅した。このため、死者5人、家屋の流失・半壊70棟、耕地の埋没・流失14町歩に及び、その他道路橋梁の損害、浸水の被害が甚大で、福田村創始以来の惨害となった。（福田の山ノ神神社境内の「災害復旧砂防工事碑」の碑文による） 山ノ神神社境内に、災害復旧砂防工事碑が建立されている。		香川837
香川58	やすらぎの塔	香川県	小豆島町（内海町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日から13日までの6日間の雨量は、台風17号の影響で、1,376ミリに達した。特に11日には内海町の日雨量が819ミリを記録した。町内では至る所で山崩れが発生し、豪雨とともに土石流となって流れ、海岸部に流れた。海岸部では高潮対策のための防潮堤がはけ口をさえぎり、植松地区のほとんどが床上浸水の被害を受けた。内海町では、死者7人、重軽傷者54人、全壊家屋127戸、床上浸水1,543戸などの被害が出た。 内海総合運動公園には、昭和49年と昭和51年の災害を繰り返さないために、土石流の土石を集めて「やすらぎの塔」が建立されている。		香川841

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川59	やすらぎの塔前のスコップを持つ少女像	香川県	小豆島町（内海町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日から13日までの6日間の雨量は、台風17号の影響で、1,376ミリに達した。特に11日には内海町の日雨量が819ミリを記録した。町内では至る所で山崩れが発生し、豪雨とともに土石流となって流れ、海岸部に流れた。海岸部では高潮対策のための防潮堤がはけ口をさえぎり、植松地区のほとんどが床上浸水の被害を受けた。内海町では、死者7人、重軽傷者54人、全壊家屋127戸、床上浸水1,543戸などの被害が出た。 内海総合運動公園には、昭和49年と昭和51年の災害を繰り返さないために、土石流の土石を集めて「やすらぎの塔」が建立されている。		香川841
香川60	西城の大水害復興記念碑	香川県	小豆島町（内海町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日～13日、台風17号が九州南西海上に停滞したため、記録的な豪雨をもたらした。8日～13日の降雨量は内海町四望頂で1,376ミリに達した。内海町では11日には急傾斜地が多い東部地域で山崩れ、河川の氾濫により災害が発生し、ついで神懸通り、西村地域で土石流が発生し、草壁本町、安田、馬木地区では床上浸水が続いた。被害は死者7人、重傷者18人、軽傷者36人、全壊127戸、半壊137戸、床上浸水1,543戸、床下浸水1,191戸等に及んだ。 西城と真光寺に復興記念碑、苗羽に被災復興之碑が建立されている。		香川1416
香川61	真光寺境内の復興記念碑	香川県	小豆島町（内海町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日～13日、台風17号が九州南西海上に停滞したため、記録的な豪雨をもたらした。8日～13日の降雨量は内海町四望頂で1,376ミリに達した。内海町では11日には急傾斜地が多い東部地域で山崩れ、河川の氾濫により災害が発生し、ついで神懸通り、西村地域で土石流が発生し、草壁本町、安田、馬木地区では床上浸水が続いた。被害は死者7人、重傷者18人、軽傷者36人、全壊127戸、半壊137戸、床上浸水1,543戸、床下浸水1,191戸等に及んだ。 西城と真光寺に復興記念碑、苗羽に被災復興之碑が建立されている。		香川1416

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川62	苗羽の被害復興之碑	香川県	小豆島町（内海町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日～13日、台風17号が九州南西海上に停滞したため、記録的な豪雨をもたらした。8日～13日の降雨量は内海町四望頂で1,376ミリに達した。内海町では11日には急傾斜地が多い東部地域で山崩れ、河川の氾濫により災害が発生し、ついで神懸通り、西村地域で土石流が発生し、草壁本町、安田、馬木地区では床上浸水が続いた。被害は死者7人、重傷者18人、軽傷者36人、全壊127戸、半壊137戸、床上浸水1,543戸、床下浸水1,191戸等に及んだ。 西城と真光寺に復興記念碑、苗羽に被災復興之碑が建立されている。		香川1416
香川63	大正7年水害の碑	香川県	小豆島町（内海町）	風水害	大正7年（1918）8月29日～30日、暴風雨。北浦、渕崎で死者8名、負傷者多く、内海地区でも揚柳橋、大川橋、西村久徳の橋、神懸橋、遊仙橋、青木橋、福田村の伊豆川橋、森庄川橋が流失した。 神懸通の西城に大正7年水害の碑が建立されている。		香川3358
香川64	谷尻の復旧記念之碑	香川県	小豆島町（池田町）	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月8日～13日、台風17号が九州南西海上に停滞したため、記録的な豪雨をもたらした。8日～13日の降雨量は池田町四方指で1,401ミリを観測した。特に11日には522ミリという、年間雨量の約半分近くの降雨があり、池田大池の決壊、谷尻地区の山津波など池田町全域で大きな被害が出た。被害は死者28人、重傷者8人、軽傷者20人、家屋の全壊60戸、半壊42戸、一部損壊22戸、床上浸水469戸、床下浸水1,026戸等に及んだ。 谷尻には昭和51年の台風17号に関する復旧記念之碑が建立されている。		香川1417

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
香川65	蛙子池碑	香川県	土庄町	風水害	天明元年(1781)、小豆島で大雨により、蛙子池が決壊した。 蛙子池の堤防には蛙子池碑が建立されている。		香川5602

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛1	疏水記念公園（戸川公園）の頌徳碑	愛媛県	四国中央市（川之江市）	渇水	安政2年（1855）、宇摩郡は大干ばつに見舞われ、農民は三島神社、黒蔵淵、水波の峯に出かけて雨乞いをした。庄屋たちは連名で、大川河水利用工事もくろみ書を三島代官所に差し出した。これはノミと鍬で法皇山脈の胴腹をくり抜いて銅山川の水を引き入れようとするもので、銅山川分水の着想はこの時が始まりである。 銅山川疏水の完成を記念して、疏水記念公園（戸川公園）に頌徳碑が建立されている。		愛媛480
愛媛2	金生川付替記念碑	愛媛県	四国中央市（川之江市）	風水害	昭和13年（1938）、前年に続いて金生川の大水により、川之江町が再び大きな被害を受けた。昭和12年、13年と続いた大水を契機に、金生川の付け替えについての町民の要望が高まった。金生川の付け替え工事は昭和15年に始まり、昭和22年に完成した。 四国中央市民会館川之江会館の前庭に「昔ここに川ありき」の石碑（金生川付替記念碑）が建立されている。		愛媛8247
愛媛3	銅山川疎水功労者頌徳碑	愛媛県	四国中央市（伊予三島市）	渇水	安政2年（1855）、宇摩地方は大干ばつに見舞われた。井戸は涸れ、池も底をついた。農民たちは雨乞いをしたが効果はなく、峰一つ越した銅山川に流れている水を引き入れることができればと考えた。そこで、三島・中曽根・松柏・妻鳥の庄屋たちが立ち上がり、連名で三島代官所に「大川河水利用もくろみ書」を差し出した。これはノミと鍬で法皇山脈をくり抜こうとするもので、代官から一蹴されたが、銅山川疏水の着想はこの時が始まりとなった。銅山川からの通水が開始されたのは昭和25年（1950年）であった。 三島公園には銅山川疎水功労者頌徳碑と紀伊為一郎翁頌徳碑が建立されている。		愛媛1480

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛4	紀伊為一郎翁頌徳碑	愛媛県	四国中央市（伊予三島市）	渇水	安政2年（1855）、宇摩地方は大干ばつに見舞われた。井戸は涸れ、池も底をついた。農民たちは雨乞いをしたが効果はなく、峰一つ越した銅山川に流れている水を引き入れることができればと考えた。そこで、三島・中曽根・松柏・妻鳥の庄屋たちが立ち上がり、連名で三島代官所に「大川河水利用もくろみ書」を差し出した。これはノミと鍬で法皇山脈をくり抜こうとするもので、代官から一蹴されたが、銅山川疏水の着想はこの時が始まりとなった。銅山川からの通水が開始されたのは昭和25年（1950年）であった。 三島公園には銅山川疎水功労者頌徳碑と紀伊為一郎翁頌徳碑が建立されている。		愛媛1480
愛媛5	今城宇兵衛顕彰碑	愛媛県	四国中央市（伊予三島市）	風水害 高潮	享保14年（1729）9月14日、大暴風雨が襲来し、洪水と高潮により、田畑の流失・荒地49町余、家の倒壊10軒、堤防の決壊56箇所2,085間、井堰の破壊72箇所1,322間、道路の決壊4箇所1,150間の被害を出した。これは、今城宇兵衛が享保13年に着工した豊岡川堤防工事にも大損害を与えた。 今城神社に今城宇兵衛の顕彰碑と頌徳碑が建立されており、豊岡小学校の南側には今城宇兵衛の墓がある。		愛媛2026
愛媛6	今城宇兵衛頌徳碑	愛媛県	四国中央市（伊予三島市）	風水害 高潮	享保14年（1729）9月14日、大暴風雨が襲来し、洪水と高潮により、田畑の流失・荒地49町余、家の倒壊10軒、堤防の決壊56箇所2,085間、井堰の破壊72箇所1,322間、道路の決壊4箇所1,150間の被害を出した。これは、今城宇兵衛が享保13年に着工した豊岡川堤防工事にも大損害を与えた。 今城神社に今城宇兵衛の顕彰碑と頌徳碑が建立されており、豊岡小学校の南側には今城宇兵衛の墓がある。		愛媛2026

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛7	今城宇兵衛の墓	愛媛県	四国中央市（伊予三島市）	風水害 高潮	享保14年（1729）9月14日、大暴風雨が襲来し、洪水と高潮により、田畑の流失・荒地49町余、家の倒壊10軒、堤防の決壊56箇所2,085間、井堰の破壊72箇所1,322間、道路の決壊4箇所1,150間の被害を出した。これは、今城宇兵衛が享保13年に着工した豊岡川堤防工事にも大損害を与えた。 今城神社に今城宇兵衛の顕彰碑と頌徳碑が建立されており、豊岡小学校の南側には今城宇兵衛の墓がある。		愛媛2026
愛媛8	八坂神社の関川改修復興記念碑	愛媛県	四国中央市（土居町）	風水害	明治32年（1899）8月28日の暴風雨は、関川、西谷川、浦山川などの堤防を流し、田畑、家屋を損壊し流失させた。この暴風雨災害は「銅山時化」と呼ばれる。それは、銅山川の出水が別子銅山を襲い、512人という死者を出す大惨事が起こったためである。 八坂神社に関川改修復興記念碑が建立されている。		愛媛2055
愛媛9	瑞応寺の別子銅山遭難流亡者碑	愛媛県	新居浜市	風水害 土砂災害	明治32年（1899)8月28日、暴風雨により、宇摩・新居郡は多大の被害を受けた。特に宇摩郡別子山村では足谷川流域の見花谷・両見谷・小足谷等で山崩れが発生し、死者1,000余人、家屋の埋没等500戸以上に及ぶ惨状を呈した。また、新居郡では加茂川が氾濫したほか、国領川の堤防が決壊して大洪水となった。この暴風雨は明治期の愛媛県における災害の中では最大の人的被害を記録した。翌9月上旬、天皇・皇后両陛下より救恤金1,600円が下賜された。 新居浜市の瑞応寺には別子銅山遭難流亡者碑が建立されている。		愛媛1753

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛10	碇神社の碑	愛媛県	西条市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日の大地震により、碇神社が遷座した。碇神社所蔵の棟札には「宝永四年（一七〇七）十月四日大地震以後高汐満就中宝永五年八月三日大洪水高汐社中迄上揚砂尺余段々及大破今年新造営干時正徳二年（一七一二）九月八日御遷宮」と記されている。		愛媛9084
愛媛11	禎瑞堤防の決壊記念碑	愛媛県	西条市	風水害	明治26年（1893）10月、大暴風雨の襲来により各所の堤防が決壊した。禎瑞海岸も龍神社の西方が94間にわたって崩れ、浸入した海水は住宅の軒を没し、耕地は90日間水底に没した。 決壊した禎瑞堤防には、決壊記念碑が建立されている。		愛媛2116
愛媛12	橘新宮神社の由緒記	愛媛県	西条市	地震・津波	天文2年（1533）、地震並びに高潮により、橘神宮神社が埋没したため、同年8月23日に元あった西田村宮の窪（今の西条市）から現在の地（西条市洲之内）に遷宮した。 （註）高潮が地震津波なのかどうかは疑問あり。		愛媛1415
愛媛13	釜之口井堰に関する標識	愛媛県	西条市（丹原町）	渇水	寛延2年（1749）、周布郡大頭・長野村が釜之口井堰で水論。（「小松町誌」による）（伊予の水論〔水争い〕年表）		愛媛1493

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛14	河上安固の墓	愛媛県	今治市	風水害	宝暦元年(1751)閏6月18日、暴風雨。蒼社川決壊、八丁高紹寺高下まで冠水、米損害7,743石。 この年、今治藩は蒼社川の付け替えを命じ、河上安固が担当した。祇園町に河上安固の墓がある。		愛媛2768
愛媛15	向雲寺の芋地蔵	愛媛県	今治市(上浦町)	渇水	享保9年(1724)、大日照りのため、島中で田11町歩が植え付けできなかった。 この頃、下見吉十郎は郷土のために甘藷を持ち帰り、その栽培が大三島や周辺の島々で広がった。吉十郎の功績を讃えて、向雲寺に芋地蔵がまつられている。		愛媛768
愛媛16	松田喜三郎翁頌徳碑	愛媛県	松山市(北条市)	渇水	昭和9年(1934)、何か月も雨の降らない日が続き、ひどい干害を受けた。農家の人の中には、少ない地下水を汲み上げ、杓ややかんで稲にかける人もいたが、稲はほとんど枯れ、収穫は平年の半分もなかった。この干ばつを契機に、松田喜三郎の提唱により、俵原池の建設工事が昭和12年に県の事業として始められ、昭和17年に完成した。 松山市北条支所前に松田喜三郎翁頌徳碑が建立されている。		愛媛1741
愛媛17	豊穣之源俵原池碑	愛媛県	松山市(北条市)	渇水	昭和9年(1934)、何か月も雨の降らない日が続き、ひどい干害を受けた。農家の人の中には、少ない地下水を汲み上げ、杓ややかんで稲にかける人もいたが、稲はほとんど枯れ、収穫は平年の半分もなかった。この干ばつを契機に、松田喜三郎の提唱により、俵原池の建設工事が昭和12年に県の事業として始められ、昭和17年に完成した。		愛媛1741

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛18	當郷餓死萬霊塔	愛媛県	松山市	その他（長雨） 風水害	享保17年（1732）5月から降り始めた雨は、麦の成熟・収穫期と重なって農作物に大きな影響を与えた。降雨は5月、6月、7月と続き、河川の氾濫、田地の流失が繰り返された。その上、日照時間の不足による低温、病害、虫害、特にうんかの異常発生で、収穫は皆無となった。西林寺の過去帳によると、享保17年の死者は198人、翌18年の死者は74人に及んだ。松山藩内では松前付近が最も惨状を呈し、義農作兵衛を出した。 松山市南高井の長善寺前には餓死者の霊を弔うため供養塔が建てられている。		愛媛4045
愛媛19	道後温泉の湯神社の標識	愛媛県	松山市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日、地震（M8.4）により、道後温泉湧出停止（145日間）。松山藩主久松定直公、道後湯神社に祈祷仰付く。 道後温泉の湯神社にある由来記には、昔温泉が地震でとまった時、温泉の再湧出を祈願したのが湯祈祷の始まりと記されている。		愛媛117
愛媛20	今村久兵衛顕彰碑	愛媛県	松山市	渇水	寛永7年（1630）、天久しく雨を下さず、枯旱焚くが如く、田面多くは亀裂して穀禾登らず、郷民大に憂色あり。／この干ばつにより、片平村の稲田は収穫を見込めないため、庄屋の久兵衛は代官に減租を願い出たが、聞き入れられなかった。農民たちは自暴自棄に陥り、稲を焼き払った。藩では多数の農民を拘束して取り調べたが、主謀者を特定することはできなかった。久兵衛は火を放ったのは自分の一存によるものであると申し出て、捕らえられ、生田原ではりつけ処刑された。 松山市古川北2丁目に今村久兵衛顕彰碑が建立されている。		愛媛6953

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛21	安長堤跡	愛媛県	松山市	風水害	元和6年(1620)6月、洪水により、市の坪が全部浸水した。石手川のつけかえ直後は市の坪に被害が集中した。市の坪の郷士安長九郎左衛門は財産を投げ出し、自力で堤防を修築した。さらに、延宝6年(1678)には、藩の援助を受け、堤防の復旧工事を行った。この時の堤防が「安長堤」と言われるものである。		愛媛4044
愛媛22	安長九郎左衛門の墓	愛媛県	松山市	風水害	元和6年(1620)6月、洪水により、市の坪が全部浸水した。石手川のつけかえ直後は市の坪に被害が集中した。市の坪の郷士安長九郎左衛門は財産を投げ出し、自力で堤防を修築した。さらに、延宝6年(1678)には、藩の援助を受け、堤防の復旧工事を行った。この時の堤防が「安長堤」と言われるものである。 安長九郎左衛門の墓は、市坪町の玉善寺にある。		愛媛4044
愛媛23	関谷忠七墓碑	愛媛県	松山市	渇水	文政6年(1823)は旱天続きで、下流では植え付けができずに困っていた。6月10日、南吉田村の忠七が西余戸村の井関を切り落としたため、これを知った東・西余戸村の人たちと忠七らは乱闘となり、忠七は鍬を打ち込まれて殺害された。この水争いがきっかけとなって、東・西余戸村、垣生村、南吉田村の間で分水の規約がつくられた。弘化4年(1847)には南吉田堂ノ元橋のたもとには「南吉田忠七墓」が建てられた。 南吉田町に関谷忠七墓碑と分水功徳主命碑が建立されている。		愛媛837

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛24	分水功徳主命碑	愛媛県	松山市	渇水	文政6年(1823)は旱天続きで、下流では植え付けができずに困っていた。6月10日、南吉田村の忠七が西余戸村の井関を切り落としたため、これを知った東・西余戸村の人たちと忠七らは乱闘となり、忠七は鍬を打ち込まれて殺害された。この水争いがきっかけとなって、東・西余戸村、垣生村、南吉田村の間で分水の規約がつくられた。弘化4年(1847)には南吉田堂ノ元橋のたもとには「南吉田忠七墓」が建てられた。 南吉田町に関谷忠七墓碑と分水功徳主命碑が建立されている。		愛媛837
愛媛25	菖蒲堰の碑	愛媛県	東温市(重信町)	渇水	天明5年(1785)、干ばつのため、菖蒲堰で水論が起こった。北方村が上堰をこれまでより高くして取水したため、下堰を利用する樋口・志津川・西岡3ヶ村が用水に窮して争論となった。郡役人の裁定によって、堰の門樋に分木を立てて、5寸6歩までを北方村へ(但し引水の井手幅は狭くすること)、5寸3歩を加えた5ヶ村井手へ(但し井手幅を広くする)流すという分水協定が結ばれた。これ以後も、菖蒲堰をめぐる水論が何度かあったが、この時の協定が基礎となって、比較的平穏裡に問題解決が図られた。		愛媛1820
愛媛26	赤坂泉由来記	愛媛県	砥部町	渇水	明和8年(1771)の大干ばつにより、下麻生村組頭の窪田兵衛門が死罪を受けるという大水論が起こったことを契機として、伊予市八倉・宮下及び松前町徳丸・出作の共有泉である赤坂泉がつくられた。赤坂泉は、市ノ井手の取水量確保のため、釣吉村庄屋の阿部万左衛門が安永3年(1774)年に赤坂泉の開鑿に着手し、天明元年(1781)に完成したもので、その後改修を加えて、寛政10年(1798)に今の形に完成した。		愛媛7926

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛27	窪田兵右衛門の墓	愛媛県	砥部町	渇水	明和8年（1771）6月8日、南神崎・徳丸・出作・宮之下・八倉の下5ヶ村の農民700人余が古樋井手の筧を引き落としたため、上・下麻生村勢200余名との間で乱闘になった。この矢取川の乱闘で下5ヶ村側に死者2人と多数の負傷者が出た。天領が含まれていたため、関係者が備中代官所に出頭するよう命じられ、各村の農民380人余が出頭した。このうち、両麻生村の者は初めから加害者扱いで投獄された。取り調べが4年にもわたる中で、村人を思い、下麻生村組頭・兵右衛門は自ら発議者であると名乗り出て、処刑された。 兵右衛門は砥部町八倉雲雀山中腹の衣更着神社に祀られ、八倉公民館裏には兵右衛門の墓が、公民館前には頌徳碑と辞世の句碑がある。		愛媛987
愛媛28	窪田兵右衛門の頌徳碑	愛媛県	砥部町	渇水	明和8年（1771）6月8日、南神崎・徳丸・出作・宮之下・八倉の下5ヶ村の農民700人余が古樋井手の筧を引き落としたため、上・下麻生村勢200余名との間で乱闘になった。この矢取川の乱闘で下5ヶ村側に死者2人と多数の負傷者が出た。天領が含まれていたため、関係者が備中代官所に出頭するよう命じられ、各村の農民380人余が出頭した。このうち、両麻生村の者は初めから加害者扱いで投獄された。取り調べが4年にもわたる中で、村人を思い、下麻生村組頭・兵右衛門は自ら発議者であると名乗り出て、処刑された。 兵右衛門は砥部町八倉雲雀山中腹の衣更着神社に祀られ、八倉公民館裏には兵右衛門の墓が、公民館前には頌徳碑と辞世の句碑がある。		愛媛987

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛29	窪田兵右衛門辞世の句碑	愛媛県	砥部町	渇水	明和8年（1771）6月8日、南神崎・徳丸・出作・宮之下・八倉の下5ヶ村の農民700人余が古樋井手の筧を引き落としたため、上・下麻生村勢200余名との間で乱闘になった。この矢取川の乱闘で下5ヶ村側に死者2人と多数の負傷者が出た。天領が含まれていたため、関係者が備中代官所に出頭するよう命じられ、各村の農民380人余が出頭した。このうち、両麻生村の者は初めから加害者扱いで投獄された。取り調べが4年にもわたる中で、村人を思い、下麻生村組頭・兵右衛門は自ら発議者であると名乗り出て、処刑された。 兵右衛門は砥部町八倉雲雀山中腹の衣更着神社に祀られ、八倉公民館裏には兵右衛門の墓が、公民館前には頌徳碑と辞世の句碑がある。		愛媛987
愛媛30	素鷲神社の水害復興記念碑	愛媛県	松前町	風水害	昭和18年（1943）7月21日～24日の台風により、松山では平均雨量の5ヶ月分が4日間に降った。県下の被害は、死者114人、行方不明20人、家屋全壊1,132戸、床上浸水27,020戸、堤防決壊1,074戸などとなった。松前町では、23日午前9時に北伊予村徳丸地先の左岸堤防が決壊し、続いて岡田地区6箇所も決壊し、耕地の流失・埋没1,730町歩の被害を受けた。相川知事は、災害復旧工事のため連日陣頭指揮を行い、もっこも担ぎ作業にも従事した。 中川原の素鷲神社に水害復興記念碑が建立されている。		愛媛4264

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛31	義農神社の義農之墓	愛媛県	松前町	その他（長雨）	享保17年（1732）5月下旬から降り出した雨は、7月上旬まで続き、重信川などが氾濫し、これに6月中旬から稲田に発生したウンカが追い打ちをかけて、飢饉となった。西南諸藩の中で松山藩の被害は特に甚大であり、藩から幕府への報告によると、藩内の餓死者は3,489人で全国の3分の1程を占めていた。その松山藩の中でも、筒井村を中心とする伊予郡の被害が最も大きかった。筒井村の作兵衛は、自らの命と引き替えに、麦種子を後世に残して餓死した。松山藩主は、幕府より「差扣」（さしひかえ）の処分を受けた。 義農作兵衛は義農神社に祀られ、義農公園が整備されている。毎年4月23日には遺徳をしのび、義農祭りが行われている。		愛媛4271
愛媛32	義農神社の義農作兵衛之像	愛媛県	松前町	その他（長雨）	享保17年（1732）5月下旬から降り出した雨は、7月上旬まで続き、重信川などが氾濫し、これに6月中旬から稲田に発生したウンカが追い打ちをかけて、飢饉となった。西南諸藩の中で松山藩の被害は特に甚大であり、藩から幕府への報告によると、藩内の餓死者は3,489人で全国の3分の1程を占めていた。その松山藩の中でも、筒井村を中心とする伊予郡の被害が最も大きかった。筒井村の作兵衛は、自らの命と引き替えに、麦種子を後世に残して餓死した。松山藩主は、幕府より「差扣」（さしひかえ）の処分を受けた。 義農作兵衛は義農神社に祀られ、義農公園が整備されている。毎年4月23日には遺徳をしのび、義農祭りが行われている。		愛媛4271
愛媛33	大谷池記念碑	愛媛県	伊予市	渇水	大正11年（1922）、南伊予村は大干ばつで、翌大正12年は大水害と2年連続の災害を被った。南伊予村村長の武智惣五郎は、大正12年に大谷川を堰き止めて大谷池の築造を計画した。大正13年に南伊予村外3ヶ村（郡中村、松前町、北伊予村）耕地整理組合を組織し、事業の推進に向けた活動を進め、ようやく昭和5年に大谷池築造が県営事業に移されることになったが、完成したのは昭和20年3月のことであった。		愛媛1481

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛34	武智惣五郎氏頌徳碑	愛媛県	伊予市	渇水	大正11年(1922)、南伊予村は大干ばつで、翌大正12年は大水害と2年連続の災害を被った。南伊予村村長の武智惣五郎は、大正12年に大谷川を堰き止めて大谷池の築造を計画した。大正13年に南伊予村外3ヶ村(郡中村、松前町、北伊予村)耕地整理組合を組織し、事業の推進に向けた活動を進め、ようやく昭和5年に大谷池築造が県営事業に移されることになったが、完成したのは昭和20年3月のことであった。		愛媛1481
愛媛35	大谷池築造殉職者慰霊塔	愛媛県	伊予市	渇水	大正11年(1922)、南伊予村は大干ばつで、翌大正12年は大水害と2年連続の災害を被った。南伊予村村長の武智惣五郎は、大正12年に大谷川を堰き止めて大谷池の築造を計画した。大正13年に南伊予村外3ヶ村(郡中村、松前町、北伊予村)耕地整理組合を組織し、事業の推進に向けた活動を進め、ようやく昭和5年に大谷池築造が県営事業に移されることになったが、完成したのは昭和20年3月のことであった。		愛媛1481
愛媛36	須沢の追悼碑	愛媛県	大洲市(長浜町)	風水害 土砂災害	明治19年(1886)9月24日午後7時、風雨がますます烈しくなり、午後11時に櫛生村須沢の奥の谷が100余間崩壊し、山麓の人家が埋没、流失した。堆積は最大72尺に及んだ。須沢での被害は、死者39人(男22人、女17人)、家屋の流失7戸、埋没43戸、倒壊19戸、半壊3戸、牛埋没11頭、田の流亡1町4反余、畑の荒亡1町1反余、船の流失6艘等に及んだ。なお、この災害で亡くなった39人のうち、屍が掘り出されたのは12人にすぎず、27人は不明である。 須沢には追悼碑が建立されている。		愛媛1573

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
愛媛37	白滝公民館前の出水標	愛媛県	大洲市（長浜町）	風水害	昭和18年（1943）7月24日、洪水により、白滝小学校では階下教室に浸水し、奉安殿の浸水も心配されるためご真影を奉還し、重要書類を二階に移した。水位は白滝公民館前で10.456mに上がり、白滝の町並は屋根まで土砂で埋まった。町の人々は西滝寺に避難した。（「白滝小沿革誌」による）栄小学校では、水深が校舎床上2.04mに及び、物品を搬出しようとしたが、川舟が流失したため、また夜半のため天井裏に運んだ。勅語謄本は瑞林寺に奉還した。（「栄小沿革誌」による）白滝公民館前には、昭和18年の水位を示す出水標が建てられている。		愛媛4575
愛媛38	肱川治水碑	愛媛県	大洲市	風水害	平成7年（1995）7月3日～4日、梅雨前線の南下に伴う活発な活動により、小田川、矢落川、野村ダム上流域で多量の降雨を記録した。大洲雨量観測所では総雨量が約250ミリとなった。このため、肱川では昭和45年以来の大洪水となり、大洲地点の水位観測所では4日10時30分～11時に最高5.84mを記録した。この洪水により、浸水被害は家屋と事業所の合計で床上浸水426戸、床下浸水482戸、軒下浸水20戸に及んだ。このため、平成7年度から5年間で激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）が行われた。肱川激甚災害対策特別緊急事業の完成を記念して、白滝地区に肱川治水碑が建立されている。		愛媛8526
愛媛39	竹之窪水騒動碑	愛媛県	大洲市	渇水	文化6年（1809）、干ばつのため、新谷領阿蔵村と大洲領大洲村との間に竹之窪水論が起こった。阿蔵村は慣例に従い、上流の平地村に対して竹之窪井関の水脈を切り落としてもらうことを要請したが、平地村は要請を拒絶した。このため、阿蔵村の農民が井関の水脈を切り落としたため、争いとなった。結局、阿蔵村の農民は宇和島藩八幡浜代官らの助力も得て、権利を守りきった。紛争が解決したのは、翌文化7年10月30日であった。圓満寺前に竹之窪水騒動碑がある。		愛媛1058

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知1	加奈木の崩えの標識	高知県	室戸市	地震・津波 土砂災害	宝永4年（1707）の地震により、室戸市の佐喜浜川源頭部で加奈木の崩えが発生した。加奈木の崩えは、山向き小崖や線状凹地の発達する緩斜面の縁辺部の急斜面に当たり、トップリングによる緩みの著しい斜面から深層崩壊が発生したと推定されている。その後1746年に土石流が発生したと推定されている。崩壊地の荒廃は長期にわたったが、大正6年（1917）から昭和39年（1964）に至る47年間にわたる治山工事によって、斜面は小康状態を保っている。		高知5477
高知2	佐喜浜川上流の治山工事記念碑	高知県	室戸市	地震・津波 土砂災害	延享3年（1746）、加奈木崩壊が最初に起こり、その後大崩壊が続いた。昭和21年の南海震災により新崩壊が発生し、降雨毎に川床は上昇し天井川をなし流路が一定せず、洪水時には河川、工作物及び耕作地、林野等に被害が及んだ。高知営林局では大正6年に治山工事に着手し、昭和39年を以て完工した。 佐喜浜川上流に治山工事に関する記念碑が建立されている。		高知5265
高知3	昭和9年海嘯襲来地点碑（山田邸前）	高知県	室戸市	風水害 高潮	昭和9年（1934）9月21日、室戸台風が襲来した。この台風を小学校1年生で体験した筆者が、台風の時の家の様子や台風後の浜の様子、三高小学校の被害の様子などを記している。また、室戸台風に伴う高潮襲来に関する碑等の記述のほか、被害状況を示す写真も掲載している。 室戸市室戸岬町の旧国道沿いには室戸台風に伴う高潮襲来地点に関する碑が建立されている。		高知3139
高知4	昭和9年海嘯襲来地点碑（津呂王子宮）	高知県	室戸市	風水害 高潮	昭和9年（1934）9月21日、室戸台風が襲来した。この台風を小学校1年生で体験した筆者が、台風の時の家の様子や台風後の浜の様子、三高小学校の被害の様子などを記している。また、室戸台風に伴う高潮襲来に関する碑等の記述のほか、被害状況を示す写真も掲載している。 室戸市室戸岬町の旧国道沿いには室戸台風に伴う高潮襲来地点に関する碑が建立されている。		高知3139

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知5	昭和9年海嘯襲来地点碑（室戸岬港北端）	高知県	室戸市	風水害 高潮	昭和9年（1934）9月21日、室戸台風が襲来した。この台風を小学校1年生で体験した筆者が、台風の時の家の様子や台風後の浜の様子、三高小学校の被害の様子などを記している。また、室戸台風に伴う高潮襲来に関する碑等の記述のほか、被害状況を示す写真も掲載している。 室戸市室戸岬町の旧国道沿いには室戸台風に伴う高潮襲来地点に関する碑が建立されている。		高知3139
高知6	昭和9年海嘯襲来地点碑（西河原町）	高知県	室戸市	風水害 高潮	昭和9年（1934）9月21日、室戸台風が襲来した。この台風を小学校1年生で体験した筆者が、台風の時の家の様子や台風後の浜の様子、三高小学校の被害の様子などを記している。また、室戸台風に伴う高潮襲来に関する碑等の記述のほか、被害状況を示す写真も掲載している。 室戸市室戸岬町の旧国道沿いには室戸台風に伴う高潮襲来地点に関する碑が建立されている。		高知3139
高知7	昭和風水害之碑	高知県	室戸市	風水害 高潮	昭和9年（1934）9月21日午前5時、台風が奈半利町に上陸し、その後東北進した。室戸で観測した最低気圧は684ミリ、最大瞬間風速65m、最大風速45で、後日室戸台風と名付けられた。県下では安芸郡の被害が最も激甚であった。被害の最大原因は高潮で、高潮の高さは須崎港で4m、吉良川で6～7m、室戸付近で12～13mに達した。10月5日現在の県下の被害は、死者94人、行方不明28人、負傷者508人、全壊851世帯、半壊1,997世帯、流失346世帯、床上浸水934世帯、床下浸水1,757世帯に及んだ。 室戸市耳崎には昭和風水害之碑が建立されている。		高知3429
高知8	菜生海岸の台風23号被災跡地碑	高知県	室戸市	風水害	平成16年（2004）10月20日、台風23号により、室戸市室戸岬高浜地区で高波が発生し、防潮堤の一部が高さ1.5m、長さ30mにわたり損壊した。損壊した防潮堤のコンクリート塊の一部が北側の集合住宅を直撃し、防潮堤の損壊箇所からは大量の海水・流木が住宅地に流れ込み、死者3人、軽傷者2人、住宅の全壊5棟、半壊3棟、一部破損4棟、床上浸水6棟、床下浸水3棟の被害をもたらした。 菜生海岸に台風23号被災跡地碑が建立されている。		高知4600

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知9	加茂谷の殉職碑	高知県	北川村	風水害	昭和46年（1971）7月25日～26日の集中豪雨は、安田町を中心に中芸地区に大きな被害を与えた。安田町では特に正弘、間下、東谷地区の被害が大きく、正弘地区では3戸の民家が土砂に押しつぶされ、下敷きとなった一家6人のうち2人が死亡した。安田町の被害は、死者2人、軽傷2人、住家の全壊8戸、半壊8戸、一部破損5戸、床上浸水26戸、床下浸水128戸等であった。この時、北川村でも救助中の消防士と警察官が抱き流にのまれて殉職した。 北川村の加茂谷には消防士と警察官の殉職碑が建立されている。		高知1410
高知10	安田川橋の災害復興記念碑	高知県	安田町	風水害 高潮	大正元年（1912）9月22日夜半に県東部海岸をかすめて北上した大型台風により、21日～22日の合計雨量は500ミリ前後となり、風水害及び高潮による被害は安芸郡全域に大きかった。安田村でも大きな被害を受け、古老の話によると「松の大木が根こそぎ倒れ、台風時には無数の火が飛んで昼のようであった」と伝えられ、大正時化と呼ばれていた。また、安田川は西嶋の堤防が決壊して氾濫した。 安田川橋のたもとに災害復興記念碑が建立されている。		高知1406
高知11	大山岬の殉職の碑	高知県	安芸市	風水害	昭和34年（1959）9月26日、伊勢湾台風の影響で、東洋町野根では高さ10mの大波が押し寄せ、平常の波打ち際より150～200m離れた住家地帯にも押し寄せた。県下の被害は、死者4人、負傷者78人、家屋の全壊66棟、半壊65棟、田の流失33ha、冠水68ha、畑の流失9ha、冠水17ha、道路損壊36箇所などの被害が出た。死者のうち1人は安芸土木出張所の職員で、26日午後3時半頃、安芸市伊尾木の大山岬の国道55号脇で災害状況調査の写真撮影中に高波にさらわれて殉職した。 大山岬の現場と高知県安芸総合庁舎前には、殉職の碑が建立されている。		高知3384

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知12	高知県安芸総合庁舎前の高知県技師殉職之碑	高知県	安芸市	風水害	昭和34年（1959）9月26日、伊勢湾台風の影響で、東洋町野根では高さ10mの大波が押し寄せ、平常の波打ち際より150～200m離れた住家地帯にも押し寄せた。県下の被害は、死者4人、負傷者78人、家屋の全壊66棟、半壊65棟、田の流失33ha、冠水68ha、畑の流失9ha、冠水17ha、道路損壊36箇所などの被害が出た。死者のうち1人は安芸土木出張所の職員で、26日午後3時半頃、安芸市伊尾木の大山岬の国道55号脇で災害状況調査の写真撮影中に高波にさらわれて殉職した。 大山岬の現場と高知県安芸総合庁舎前には、殉職の碑が建立されている。		高知3384
高知13	久保高井の耕地整理記念碑	高知県	香美市（物部村）	土砂災害	天明8年（1788）7月26日夜半、豪雨のため、物部村久保高井で大規模な崩壊（土量約220万立米）が発生し、被害は死者28人、流失・埋没家屋28軒に及んだ。この時の被害記録が「南路志」に残されており、これによると崩壊土砂は上韮生川（当時の名称：藤原川・大川）を堰き止め、深さ20間（36m）、幅70間（126）、長さ3町（327m）の天然ダムを形成したという。この天然ダムは翌年か2年後に決壊したと言われている。 久保高井には耕地整理の記念碑があり、この記念碑には天明年間に山崩れがあり19町歩が原野山林となったが、昭和4年に村が耕地整理を計画、実施したことなどが記されている。		高知1223
高知14	観音山の安政地震碑	高知県	香南市（夜須町）	地震・津波	安政元年（1854）11月4日早朝に地震が発生、5日夕七ツ時（午後4時）に大地震が発生し、津波が襲来した。夜須では、観音山に数百人が逃げて助かった。観音山の記念碑には、この山は命の山である、宝物を家に残したとしても家に戻ってはならぬなどと記されている。また、八幡宮神官「有安家文書」には、横浜の人家300軒ほどのうち残ったのは20軒ほどであり、手結浦の人家も100軒ほど流されたことなどが記されている。さらに、「真覚寺日記」にも夜須の歳増屋の話が出てくる。 夜須の観音山には石碑が建立されている。		高知84

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知15	飛鳥神社の安政地震記念碑	高知県	香南市（香我美町）	地震・津波	安政元年（1854）11月4日辰刻（午前8時）、地震が発生したが、岸本浦の地曳網が流されたり、夜須浜で潮の変調が感じられる程度であった。翌5日七ツ時（午後4時）に大地震が起こり、午後5時頃には1番波、2番波が来た。その引き潮は矢を射るごとくであった。午後6時過ぎには3番波、4番波が到来し、午後7時には大地震が起こり、最大の5番波がやってきて、流家が出た。（「大変記」による）赤岡の町中の人は山に上がり、6、7日も山にこもっていた。5日は夜明けまでに34度も地震があった。（「浜田文書」による） 岸本の飛鳥神社境内には「懲毖」を題する安政地震記念碑が建立されている。		高知87
高知16	上岡八幡宮の安政地震記念碑	高知県	香南市（野市町）	地震・津波	安政元年（1854）11月4日～5日に最大M8.4の地震が発生。土佐国内の被害は、民家焼失2,460軒、流失3,182軒、潰家2,939軒、半潰8,880軒、田地21,530石余、死者372人、負傷者1,808人等と記録されている。上岡八幡宮馬場先の安政地震記念碑には「嘉永七年寅十一月五日大地震、地所によりしづみ、浦々人家流失、人いたみ夥敷、上岳西川原まで浪来る事を記」と書かれており、津波は物部川をかなりさかのぼったことを伝えている。 上岡八幡宮馬場先の鳥居横には、安政地震の記念碑が建立されている。		高知97
高知17	下井溝改築記念碑	高知県	香南市（野市町）	風水害	明治25年（1892)7月23日～25日の暴風雨により、物部川橋付近の堤外地が押し流され、東岸では十善寺の深渕神社地が流出した。また、西岸三島村の堤防が約3町決壊し、濁流は稲生村（現在の南国市）に達したという。さらに、下井溝が102間にわたって崩壊流失した。 物部川橋東詰の上流側に下井溝改築記念碑が建立されている。		高知1659

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知18	新池建設記念碑	高知県	香南市(野市町)	渇水	明治27年(1894)6月24日～7月21日及び7月25日～9月1日の間、降雨がなく、干ばつ。農民は神社に雨乞い祈願をしたり、谷川の水をくんで冠水したが、全く効果はなく、稲は刈れ、家潰れ者が続出した。これを契機に、東山谷に新池が建設されることになり、明治30年に新池が竣工した。 東佐古上分に、新池建設記念碑が建立されている。		高知454
高知19	繁藤災害の慰霊塔	高知県	香美市(土佐山田町)	土砂災害	昭和47年(1972)7月5日早朝、集中豪雨により、土佐山田町繁藤の通称追廻山(おいまわしやま)で山崩れが発生した。家屋の土砂排除などの作業中に、6時45分に2回目の山崩れが発生し、一人の消防団員が生き埋めになった。6時48分には第3回目の山崩れ、10時54分には第4回目の山崩れ、そして10時55分に第5回目の山崩れが発生し、10万立米の土砂が一瞬のうちに駅前付近の集落や停車中の列車を押し流し、60人が行方不明となった。崩壊した土砂のため、国道32号と国鉄土讃線は埋没し不通となった。		高知886
高知20	繁藤災害の慰霊碑	高知県	香美市(土佐山田町)	土砂災害	昭和47年(1972)7月5日早朝、集中豪雨により、土佐山田町繁藤の通称追廻山(おいまわしやま)で山崩れが発生した。家屋の土砂排除などの作業中に、6時45分に2回目の山崩れが発生し、一人の消防団員が生き埋めになった。6時48分には第3回目の山崩れ、10時54分には第4回目の山崩れ、そして10時55分に第5回目の山崩れが発生し、10万立米の土砂が一瞬のうちに駅前付近の集落や停車中の列車を押し流し、60人が行方不明となった。崩壊した土砂のため、国道32号と国鉄土讃線は埋没し不通となった。		高知886

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知21	甫喜ヶ峰疎水記念碑（大正8年）	高知県	香美市（土佐山田町）	渇水	明治26年（1893）、水不足となったが、これまでの水争いに疲れていた新改川沿川の村の人たちは、雨乞いをした。この時に持ち上がったのが甫喜ヶ峰（ほきがみね）疏水の計画であった。これは穴内川の水を新改川に引き入れるもので、久礼田や新改の村長などが計画を進め、高知県庁にも請願して、疏水の工事は明治29年（1896）に開始され、明治33年（1900）に完成した。 香美市土佐山田町須恵には甫喜ヶ峰疏水記念碑と甫喜峰用水記念碑が建立されている。		高知761
高知22	甫喜峰用水記念碑（昭和53年）	高知県	香美市（土佐山田町）	渇水	明治26年（1893）、水不足となったが、これまでの水争いに疲れていた新改川沿川の村の人たちは、雨乞いをした。この時に持ち上がったのが甫喜ヶ峰（ほきがみね）疏水の計画であった。これは穴内川の水を新改川に引き入れるもので、久礼田や新改の村長などが計画を進め、高知県庁にも請願して、疏水の工事は明治29年（1896）に開始され、明治33年（1900）に完成した。 香美市土佐山田町須恵には甫喜ヶ峰疏水記念碑と甫喜峰用水記念碑が建立されている。		高知761
高知23	重修山田堰之記の石碑	高知県	香美市（土佐山田町）	風水害	明治25年（1892）7月13日、台風が高知市付近に上陸し、北西進し、物部川沿岸に大きな被害を与えた。また、23日～26日の4日間続いた雨で物部川は大増水した。この洪水で、西岸の三島村（現南国市）久枝井水門の下方より大曲まで約3町（約230m）が決壊し、流失家屋3軒、死者1人の被害を出して、3年～7年の免租を受けた。水嵩は倉庫の2階に達したという。この時、山田堰は大きな被害を受け、中でも最も重要な水越しが流失したため、古文書で三閘の閘底と水越の高さを探究して、復旧工事が行われた。 春野神社前には「重修山田堰之記」の石碑が建立されている。		高知3531

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知24	史蹟山田堰遺構の標識	高知県	香美市（土佐山田町）	風水害	大正4年（1915）6月19日から25日まで雨が降り止まず、24日には物部川中上流で降水量が100ミリを越えたため、洪水が山田堰西部の主要棒を一掃し、堰裏から堤防まで61間半壊したという。（「立田村誌」による）この洪水で、山田堰の井堰が全部破壊されたので、土工組合は従来の工法ではなく、コンクリート工法で築堰した。物部川右岸に史蹟山田堰遺構が残されている。		高知3533
高知25	平山地区災害記念碑	高知県	香美市（土佐山田町）	風水害	大正14年（1925）9月14日午後5時頃から9時頃までの集中豪雨による洪水で、佐岡、新改、繁藤に大きな被害が出た。佐岡地区では県道山田大栃線に架けられた全部の橋が流失、谷川沿いの田畑、堤防、用水路の決壊・流失は数知れず。平山地区では東川の被害が最も大きく、家屋流失数軒などの被害が出た。昭和3年に建立された平山地区災害記念碑には、同地区の災害記録が刻まれている。		高知1714
高知26	堰留神社の標識	高知県	香美市（土佐山田町）	風水害	文化12年（1815）7月、物部川の洪水により、堰留神社の社殿が流失し、同年10年に再興されたという記録が残されている。		高知4520
高知27	岡豊小学校の浸水位プレート	高知県	南国市	風水害	平成10年（1998）9月24日、集中豪雨により、南国市では床上浸水824軒、床下浸水968軒の被害が出た。岡豊小学校には、浸水位を記録したプレートが設置されている。		高知3547

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知28	室戸台風の復旧記念碑	高知県	南国市	風水害	昭和9年(1934)9月21日、室戸台風により、前浜村の海岸地帯は大きな被害を受けた。伊都多神社境内の大きな松が倒壊したということから考えて、浜通りに沿って東西に続いていた松並木の防風林も相当数倒れたに違いない。家屋や農作物にも被害があったはずである。前浜村は復旧組合を組織し、災害復旧に取り組み、昭和10年に災害復旧が完了した。前浜村は災害復旧事業と堤防建設を後世の人々に伝えるために、復旧記念碑を建立した。 復旧記念碑は昭和10年に建立されたが、その碑はクレーン車による事故で破壊されたため、現在の碑は再建されたものである。		高知3381
高知29	琴平神社の玉垣碑	高知県	南国市	地震・津波	安政元年(1854)11月4日、地震、津波が起こった。琴平神社拝殿前の玉垣には九基に分けて、地震、津波のことが刻まれている。なお、九基のうち三基は順番が入れ替わっているが、これは昭和21年の南海大地震で倒れ、立て直した時に入れ替わったのだろうと宮司が話してくれた。 琴平神社拝殿前の玉垣には九基に分けて、安政地震と津波のことが刻まれている。		高知5259
高知30	仁井田神社の玉垣碑	高知県	高知市	地震・津波	安政元年(1854)11月4日、5日、地震が起き、津波が襲来した。この論文では、安政地震・津波に関する碑等として、観音山の津波記念碑、飛鳥神社境内の安政大地震記念碑(以上、香南市)、上岡八幡宮境内の安政地震記念碑(香美市)、琴平神社境内の玉垣の津浪碑(南国市)、仁井田神社境内の玉垣の津浪碑、浦戸の津波記念碑(以上、高知市)が紹介され、碑文の解説や語句の説明なども行われている。		高知329

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知31	浦戸の稲荷神社の石柱碑	高知県	高知市	地震・津波	安政元年（1854）11月4日、5日、地震が起こり、津波が襲来した。この本には、高知県内の安政地震・津波に関する石碑等として、夜須町・観音山の碑、香我美町・飛鳥神社の石碑、野市町・上岡八幡宮の石碑、南国市・琴平神社の玉垣碑、高知市浦戸・稲荷神社の石柱碑、土佐市宇佐町萩谷の石碑、佐川町・阿弥陀堂の絵馬、中土佐町・久礼熊野神社の石碑、大方町入野・加茂神社の石碑、中村市下田・住吉神社の碑、土佐清水市下の加江・五味天満宮の碑、宿毛市大島はいたか神社石段の碑等が紹介されている。		高知1201
高知32	大津地区水害記録碑	高知県	高知市	風水害	平成10年（1998）9月24日未明から25日朝にかけての豪雨により、高知県中部の河川が氾濫し、県下の被害は死者8人、負傷者13人、家屋の全壊24棟、半壊・一部損壊95棟、床上浸水13,442棟、床下浸水10,235棟に上った。なかでも国分川・舟入川の浸水被害は甚大で、家屋・事業所等の床上浸水4,213棟、床下浸水1,955棟、田畑の冠水1,420haの被害となった。大津地区などでは家屋の1階が水没し、多くの住民が2階に孤立したため、県の防災ヘリコプター、自衛隊、消防署、県警のボートなどで救助された。 大津ふれあいセンター前には大津地区水害記録碑が建立されている。		高知5197
高知33	比島山の慰霊碑	高知県	高知市	風水害 土砂災害	昭和47年（1972）9月15日、集中豪雨により高知市比島町の比島山北面が突然崩れ、火災発生も災いし、犠牲者を出した。被害は、死者11人、負傷者3人、家屋の全半壊31戸、床上浸水2,292戸、床下浸水11,300戸に及んだ。 比島山に災害慰霊塔が建立されている。		高知474

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知34	円行寺の災害復旧記念碑	高知県	高知市	風水害 土砂災害	昭和51年（1976）9月13日未明、台風17号の豪雨により、大谷山の大崩壊があり、円行寺川を土石流が流れ、赤井谷の民家8戸32棟が流失・埋没し、流域の耕地約5.2haが砂れきと化すなど甚大な被害を受けた。地元住民は公民館活動で災害対策委員会を結成するなどして、災害復旧工事を国、県、市に働きかけ、17億円の巨費と3年の歳月を経て工事が完成した。昭和54年に円行寺遊園地に災害復旧記念碑が建立された。また、被災者の体験談や関係者の記録が掲載されている。		高知764
高知35	八田堰の跡の標識	高知県	高知市（春野町）	渇水	明治26年（1893）、水不足のため、八田と下流9ヶ村が水争いとなり、17人の受刑者を出すに至った。 仁淀川左岸に八田堰改修記念碑と八田堰の跡の標識が建立されている。		高知654
高知36	いの町吾北総合支所の災害復旧記念碑	高知県	いの町（吾北村）	風水害	昭和50年（1975）8月17日、台風5号により、最大風速40m、最大1時間当たり119ミリの雨が断続的に降り続いた。吾北村では死者5人、重軽傷者15人、家屋の全半壊151戸、床上浸水34戸、床下浸水65戸、田の流失・埋没45ha、畑の流失・埋没11ha、山林の損失55ha（推定）の被害があり、上八川地区、清水地区、小川地区、下八川地区の人家の密集したところは例外なく被害を受けた。川沿いに並ぶ旅館や商店はすべて2階まで浸水した。災害救助法の適用を受けた。 いの町吾北総合支所前には、昭和50年の台風5号と昭和51年の台風17号に関する災害復旧記念碑が建立されている。		高知5146

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知37	神谷割石の慰霊碑	高知県	いの町（伊野町）	風水害 土砂災害	昭和50年（1975）8月17日、台風5号により、伊野町では16時～17時の1時間に105ミリの降雨量を記録し、町の市街地の大部分が水没し、特に町北西部の山間地区では土石流により人命や家屋などに大きな被害が出た。また、8月22日には台風6号により、強い雨が降り続き、人的被害はなかったものの、床上浸水、土砂流出などによる被害を受けた。両台風による被害は、9月30日現在で死者21人、行方不明者2人、重傷者16人、軽傷者35人、建物の全壊128戸、半壊100戸、床上浸水2,083戸等に及んだ。 神谷割石には台風5号による犠牲者の冥福を祈る慰霊碑が建立されている。		高知1159
高知38	萩谷の安政南海地震碑	高知県	土佐市	地震・津波	安政元年（1854）11月4日午前11時大地震が起こり、津波が7、8度押しよせたが人家までは来なかった。翌5日午後5時頃、未曾有の大地震が発生し、山崩れ、人家倒壊が起こり、人々が救助を求めているところに大津波が襲来した。宇佐村で残った家は60軒で、溺死10余人であった。津波は7回に及び、その中でも第4と第5の波が最も甚だしく、15、6町を隔てた山際の家も流失し、残ったのは山上の1戸のみであった。 宇佐の萩谷には「安政地震・津波の碑」が建立されている。		高知153
高知39	震災復興記念碑	高知県	土佐市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時20分、南海地震が発生し、土佐市内では宇佐を中心に死者・行方不明3名、負傷58名、家屋倒壊151戸、家屋半壊831戸、家屋流出341戸、罹災者6,114名、船舶流失42隻などの大きな被害が出た。宇佐は津波被害を受けていない住民がいないというほどの壊滅状態であったが、他の地区に比べて死者が少なかった。これは、宇佐が昔から何回か津波の被害を受けてきたため、先人がその経験により得た尊い教訓を残していたためである。 宇佐には「震災復興記念碑」が建立されている。		高知151

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知40	鳴川公民館の台風5号災害碑	高知県	土佐市	風水害 土砂災害	昭和50年（1975）8月17日、台風5号により、土佐市では時間雨量117ミリ、24時間雨量550ミリを記録した。鳴川地区では17日午後4時20分頃、かくしが谷附近より山津波が発生するとともに、中大峠の山津波をはじめ山崩れ・崖崩れ等が無数に発生し、殉職者2人、重傷者3人、軽傷者2人、家屋の全壊4戸、流失3戸、半壊5戸、床上浸水10戸、床下浸水ほとんどの家、流失田畑約15ha等の被害を出した。鳴川地区の住民は用地だけでなく、私財、労力を提供して、災害復旧を行った。 鳴川公民館前には、台風5号災害碑が建立されている。		高知1031
高知41	復興之塔	高知県	土佐市	風水害 土砂災害	昭和50年（1975）8月17日、台風5号により、最大時間雨量は117ミリ、24時間雨量は550ミリとなり、鳴川・天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊など、市内一円にわたって甚大な被害を受けた。被害は死者6人、重軽傷者74人、家屋の全半壊98戸、床上浸水2,255戸、床下浸水2,100戸、被害額138億9,400万円と記録されている。激甚災害対策特別緊急事業が適用された。 土佐市民公園に昭和50年台風5号に関する「復興之塔」が建立されている。		高知719
高知42	家俊の災害之記録碑	高知県	土佐市	風水害 土砂災害	昭和50年（1975）8月17日午前8時50分頃、台風5号が宿毛市に上陸し、台風の中心が伊予灘に抜けた昼頃から仁淀川中流域一帯は豪雨に見舞われた。土佐市では1時間雨量117ミリ、24時間雨量550ミリを記録し、鳴川の山崩れ、天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊のほか、市内一円にわたって河川の氾濫による濁流で浸水し、泥海のようになった。音丸の浸水記録碑、岩戸川災害復興記念碑、高岡の消防署前の浸水記録碑などが、この台風の被害の大きさを物語っている。		高知4515

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知43	岩戸川災害復興記念碑	高知県	土佐市	風水害 土砂災害	昭和50年（1975）8月17日午前8時50分頃、台風5号が宿毛市に上陸し、台風の中心が伊予灘に抜けた昼頃から仁淀川中流域一帯は豪雨に見舞われた。土佐市では1時間雨量117ミリ、24時間雨量550ミリを記録し、鳴川の山崩れ、天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊のほか、市内一円にわたって河川の氾濫による濁流で浸水し、泥海のようになった。音丸の浸水記録碑、岩戸川災害復興記念碑、高岡の消防署前の浸水記録碑などが、この台風の被害の大きさを物語っている。		高知4515
高知44	高岡堤防竣工記念碑	高知県	土佐市	風水害	昭和50年（1975）8月17日、宿毛市付近に上陸した台風5号は、仁淀川上流を中心に集中豪雨をもたらした。鳴川・天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊、用石・高岡市街地・家俊の浸水などにより、土佐市では死者6名、負傷者74名、家屋全壊26戸、家屋半壊72戸、床上浸水2,255戸などの被害が出て、被害額は138億9,400万円に達した。この台風被害を契機に、激甚災害対策特別緊急事業の指定を受け、波介川改修が行われた。 昭和50年の台風5号による被害を契機に、高岡堤防の拡幅強化が行われた。高岡堤防竣工記念碑が建立されている。		高知2019
高知45	土佐市消防署の浸水記録碑	高知県	土佐市	風水害	昭和50年（1975）8月17日午前8時50分頃、台風5号が宿毛市に上陸し、台風の中心が伊予灘に抜けた昼頃から仁淀川中流域一帯は豪雨に見舞われた。土佐市では1時間雨量117ミリ、24時間雨量550ミリを記録し、鳴川の山崩れ、天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊のほか、市内一円にわたって河川の氾濫による濁流で浸水し、泥海のようになった。音丸の浸水記録碑、岩戸川災害復興記念碑、高岡の消防署前の浸水記録碑などが、この台風の被害の大きさを物語っている。		高知4515

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知46	真覚寺日記の標識	高知県	土佐市	地震・津波	安政元年（1854）11月4日、5日、大地震。真覚寺日記には、5日の地震について「七ツ半時俄に一天薄闇く相成り近代未曾有の大地震、山川鳴り渡り土煙空中に満ち飛鳥も度を失い、人家は縦横無尽に潰崩し瓦石は四方へ飛び、大地破裂してたやすく逃げ走る事も成り難く、男女只狼狽周章し児童呼叫の声おびただし、間もなく沖より山のごとき波入り来たり宇佐福島一面の海と成る」と記されている。真覚寺日記は真覚寺の住職静照師が安政地震の惨状を後世に伝えるために書き続けた15年に及ぶ記録である。		高知1172
高知47	日下川放水路竣工記念碑	高知県	日高村	風水害	昭和50年（1975）8月17日午後2時頃から、台風5号により豪雨が降り続き、全村居住地の80%が完全に水没した。午後4時頃には、浸水家屋のほとんどは床上浸水となり、国道33号沿いの民家では水深が2階近くに達し、中心部の役場庁舎や農協の建物も1階は完全に水没した。雨は17日夜半に止まったが、増水は翌18日昼頃まで続き、交通は19日午後まで完全に途絶した。被害は、水没地域450ha、家屋の倒壊・半壊・流失150戸、死者25人、小の山崩れ740箇所、水田水没210ha、畑水没50ha等に及んだ。 この水害を契機に、日下川治水抜本工事が計画されるようになった。		高知530
高知48	池川保健福祉センター前の台風5号記念碑	高知県	仁淀川町（池川町）	風水害	昭和50年（1975）8月17日、台風5号が宿毛市に上陸した。時間雨量は佐川町で108ミリ、池川町で74ミリを記録し、仁淀川上流を中心に記録的な集中豪雨となった。特に池川町では人家や家畜が流失するなど未曾有の大災害になった。伊野町、日高村など県下で死者は77人に達した。 仁淀川町池川保健福祉センターに台風5号記録碑が建立されている。		高知1843

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知49	宝永地震による天然ダムの災害碑	高知県	越知町	地震・津波 土砂災害	宝永4年（1707）10月4日の地震に伴う土砂災害により、仁淀川中流の舞ヶ鼻に天然ダムが形成された。天然ダムの湛水標高は61m（湛水高18m）と推定され、越知町柴尾地区には「石碑（湛水標高61m）より下部には家を建てるな」という言い伝えが残されている。 越知町柴尾の一本杉に、宝永地震による天然ダムの災害碑がある。		高知5463
高知50	宝永津浪溺死之塚	高知県	須崎市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日、大地震により津波が起こり、須崎で400余人が溺死した。この惨禍を後世の教訓として碑に残したのが「宝永津浪溺死之塚」である。この碑は130年忌の法用を営み改葬するに当たって、須崎郷浦の世話人によって計画が進められていた折に安政地震に遭遇するが、その時には宝永の大地震の体験が生かされて多くの犠牲者を出すことはなかった。この宝永津浪溺死之塚のほかに、宝永津浪の供養碑が津野神社と二ツ石大師堂に建立されている。		高知5261
高知51	地蔵堂の南海地震碑	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、大地震が発生し、浜町や横町では家の倒壊により11名の圧死者を出した。全壊家屋は130余戸、津波による流失家屋は40余戸に達した。（南海大地震災害誌」による）津波は地震後約10分程で襲来した。浸入した津波の高さは須崎湾の入口よりも内湾で高くなった。駅前や原町地蔵堂付近では逃げ遅れた避難民が、秒速2.5mに及ぶ潮流に抗したが、水深2m余りの中、40余名の犠牲者が出た。 原町の地蔵堂境内には南海地震碑が建立されている。		高知179

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知52	須崎橋の津波之碑	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、震度7の激震が発生した。須崎市では地震後約10分で津波の第一波が襲来し、その後2時間半くらいに津波が6、7回襲来した。波高は最高5mと推定されている。津波の被害が大きかった地区は須崎市街地の堀川以北で、予期しなかった古倉方面からの津波侵入、避難の遅れ、流木が避難進路を塞いだことなどが被害を大きくした。被害は死者58人、行方不明者3人、負傷者140人、家屋の全壊198戸、半壊563戸、流失168戸、浸水1,315戸、焼失9戸、船舶の流失683隻等に及んだ。 須崎橋には津波之碑が建立されている。		高知5603
高知53	須崎八幡宮木札の標識	高知県	須崎市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日、地震が起こり、津波が来襲した。庄屋・川淵太惣兵衛が記録した須崎八幡宮の木札には、この時の地震・津波により損田592石、流家432軒、流死331人、寺3箇所、堂社10箇所の被害があったことなどが記されている。また、木札には潮の高さが四方の山の元から1丈2尺に達したこと、八幡宮の御輿が伊豆まで漂流し、翌年に伊豆から返還されたことなども記されている。須崎八幡宮の御輿が伊豆まで漂流し、伊豆から須崎に戻る様子は「南路志」にも記されている。 須崎八幡宮には宝永地震・津波に関する木札が社宝として保存されている。		高知367
高知54	津野神社の地蔵台座碑	高知県	須崎市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日、大地震により津波が起こり、須崎で400余人が溺死した。この惨禍を後世の教訓として碑に残したのが「宝永津浪溺死之塚」である。この碑は130年忌の法用を営み改葬するに当たって、須崎郷浦の世話人によって計画が進められていた折に安政地震に遭遇するが、その時には宝永の大地震の体験が生かされて多くの犠牲者を出すことはなかった。この宝永津浪溺死之塚のほかに、宝永津浪の供養碑が津野神社と二ツ石大師堂に建立されている。		高知5261

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知55	二ツ石大師堂の供養碑	高知県	須崎市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日、大地震により津波が起こり、須崎で400余人が溺死した。この惨禍を後世の教訓として碑に残したのが「宝永津浪溺死之塚」である。この碑は130年忌の法用を営み改葬するに当たって、須崎郷浦の世話人によって計画が進められていた折に安政地震に遭遇するが、その時には宝永の大地震の体験が生かされて多くの犠牲者を出すことはなかった。この宝永津浪溺死之塚のほかに、宝永津浪の供養碑が津野神社と二ツ石大師堂に建立されている。		高知5261
高知56	須崎八幡宮の南海大地震遭難者追悼之碑	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海地震が起き、津波が襲来した。この論文では、昭和南海地震に関する碑等として、野見震災復旧記念碑、河原恵比須神社境内の南海地震記録碑、須崎橋の津浪之碑、須崎八幡宮境内の南海大地震遭難者追悼之碑、原町地蔵堂の南海地震記録碑、中氏三本坂の震災復旧記念碑（以上、須崎市）、入野加茂神社の昭和地震碑（黒潮町）、為松公園震災碑（四万十市）が紹介されている。		高知326
高知57	野見海岸の震災復旧記念碑	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、M8.1の南海地震が起こった。この地震で地盤変動が起こり、高知から須崎まで沈下量は1.2mに及んだ。地震後約10分で津波の第一波が襲来し、その後2時間半に6、7回襲来した。須崎地域の被害は死者70人、行方不明2人、負傷者140人、家屋全壊198戸、半壊563戸、流失168戸、浸水1,315戸、焼失9戸等に及んだ。この地震に関する須崎の石碑等として、須崎橋の津波之碑、須崎八幡宮境内の碑、原町地蔵堂境内の碑、河原恵比須神社境内の碑、野見海岸の碑等が紹介されている。		高知902
高知58	恵比須神社の南海地震記録碑	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、M8.1の南海地震が起こった。この地震で地盤変動が起こり、高知から須崎まで沈下量は1.2mに及んだ。地震後約10分で津波の第一波が襲来し、その後2時間半に6、7回襲来した。須崎地域の被害は死者70人、行方不明2人、負傷者140人、家屋全壊198戸、半壊563戸、流失168戸、浸水1,315戸、焼失9戸等に及んだ。この地震に関する須崎の石碑等として、須崎橋の津波之碑、須崎八幡宮境内の碑、原町地蔵堂境内の碑、河原恵比須神社境内の碑、野見海岸の碑等が紹介されている。		高知382

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知59	神明宮石段の最高潮之跡	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時15分、室戸岬東南東約100kmでM8.1の地震が発生した。津波は地震後約10分で第一波を観測し、その後2時間半に6～7回来襲し、第三波が最高で約5mと推定されている。須崎市の被害は死者・行方不明61人、負傷者140人、家屋の全半壊833戸、流失253戸、浸水1,328戸、焼失9戸、船舶流失683隻に及んだ。 神明宮石段、江雲寺石段、恵比寿神社石段に最高潮之跡の碑が設置されている。		高知368
高知60	江雲寺石段の最高潮之碑	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時15分、室戸岬東南東約100kmでM8.1の地震が発生した。津波は地震後約10分で第一波を観測し、その後2時間半に6～7回来襲し、第三波が最高で約5mと推定されている。須崎市の被害は死者・行方不明61人、負傷者140人、家屋の全半壊833戸、流失253戸、浸水1,328戸、焼失9戸、船舶流失683隻に及んだ。 神明宮石段、江雲寺石段、恵比寿神社石段に最高潮之跡の碑が設置されている。		高知368
高知61	恵比須神社石段の最高潮之跡	高知県	須崎市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時15分、室戸岬東南東約100kmでM8.1の地震が発生した。津波は地震後約10分で第一波を観測し、その後2時間半に6～7回来襲し、第三波が最高で約5mと推定されている。須崎市の被害は死者・行方不明61人、負傷者140人、家屋の全半壊833戸、流失253戸、浸水1,328戸、焼失9戸、船舶流失683隻に及んだ。 神明宮石段、江雲寺石段、恵比寿神社石段に最高潮之跡の碑が設置されている。		高知368

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知62	新川橋の桜川水害予防組合の記念碑	高知県	須崎市	風水害	明治32年(1899)9月21日、台風と豪雨により被害が続いた。上分村役場所蔵の記録によると、田畑の損害のほか、住家の全壊17戸、納屋その他25戸、半壊30戸、堤防も寺尾で40間、日ノ川で70間決壊した。浸水家屋の調査によると、床上8尺以上が4戸、5尺以上が2戸、3尺以上が18戸、3尺以下が15戸であった。 新川橋に水害予防組合の記念碑が建立されている。		高知2396
高知63	熊野神社震災碑	高知県	中土佐町	地震・津波	安政元年(1854)11月4日、5日、地震が起き、津波が襲来した。この論文では、安政地震・津波に関する碑等として、久礼漁港災害碑、久礼熊野神社震災碑(以上、中土佐町)、伊田浜震災碑、入野加茂神社震災碑(以上、黒潮町)、下田住吉神社碑(四万十市)、五味天満宮地震碑、中浜峠池家墓碑、中浜港地震碑、三崎浦震災供養石仏、三崎十字橋碑(以上、土佐清水市)、大島はいたか神社潮位碑(宿毛市)が紹介されている。		高知325
高知64	久礼大正町市場の由来書	高知県	中土佐町	火災	大正4年(1915)1月4日午前1時、久礼八幡町より出火、焼失家屋237戸。大正天皇より救恤金350円を下賜された。(「中土佐町史」による) 久礼大正町市場の由来書には、大正天皇からの救恤金に深く感激した町民がそれまでの町名である地蔵町通りを改めて大正町と命名したことが書かれている。		高知5643

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知65	高岡神社の明治23年洪水水測標	高知県	四万十町（窪川町）	風水害 土砂災害	明治23年（1890）9月11日、台風により篠つく豪雨となった。特に四万十川上流の東津野、檮原郷の雨量が多く、沿川では牛馬や住家が流されるなど洪水被害に見舞われた。しかし、夕方、川の水が急に引き始めたため、人々が安心していた時に、再び大音響とともに激流が押し寄せて、米ノ川、越行、柳瀬、西川角、宮内、仕出原、大井町などの集落はほとんど水没し、多数の死傷者を出した。原因は、上流の東津野村倉川地区で山崩れが起こり、土砂が川を堰き止めた後、土砂の崩壊に伴い激流が襲ったためであった。 仕出原の高岡神社などに明治23年水害の水測標が建てられている。		高知578
高知66	加茂神社の安政津浪の碑	高知県	黒潮町（大方町）	地震・津波	安政元年（1854）11月4日朝方、東海道沖で強震があり、土佐でも震動を感じ、鈴浪があった。翌5日午後4時過ぎに南海道沖で大地震が起こり、大津波が来襲した。入野の加茂神社境内にある「安政津浪の碑」によると、地震により瓦屋、茅屋とも家は全て倒壊したこと、津波は7度押し寄せたが第4波が最大であったことなどが記されている。また、宮地直知の記録によると、入野の中居・早崎では60軒が流失した。本村、芝、新町、浜ノ宮も人家が3分の1程度が流失し、圧死者も5、6人出た。 入野の加茂神社境内に、「安政津浪の碑」が建立されている。		高知199
高知67	加茂神社の南海大地震の碑	高知県	黒潮町（大方町）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、南海地震が起き、津波が襲来した。この論文では、昭和南海地震に関する碑等として、野見震災復旧記念碑、河原恵比須神社境内の南海地震記録碑、須崎橋の津浪之碑、須崎八幡宮境内の南海大地震遭難者追悼之碑、原町地蔵堂の南海地震記録碑、中氏三本坂の震災復旧記念碑（以上、須崎市）、入野加茂神社の昭和地震碑（黒潮町）、為松公園震災碑（四万十市）が紹介されている。		高知326

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知68	伊田海岸の安政南海地震碑	高知県	黒潮町（大方町）	地震・津波	安政元年（1854）11月4日朝方、東海道沖で強震があり、土佐でも震動を感じ、鈴浪があった。翌5日午後4時過ぎに南海道沖で大地震が起こり、大津波が来襲した。伊田の浜では小船数隻が海岸に打ち上げられ、人家は大半が海上に引き出された。（小野桃斉記録による）また、入野の中居・早咲では人家2、3軒を残し、その他60軒が流失した。本村、芝、新町、浜ノ宮も人家が3分の1程度が流失し、死者が早咲地区で5、6人出た。（宮地直知書による）上川口では大庄屋の家が流失し、古文書等一切が流失したという。 伊田海岸の金毘羅神社入口に、安政南海地震の碑が建立されている。		高知204
高知69	太平寺石段の最高水位標	高知県	四万十市（中村市）	風水害	昭和10年（1935）8月27日、台風による風雨が激しくなり、渡川と後川の水位は刻々上昇した。最高水位は渡川具同で12.07m、後川大用寺で10.31mに達した。中村町の洪水の中で最大であり、浸水というよりも沈没という言葉が当てはまる有様であった。中村町では、浸水360ha、罹災世帯1,650世帯、負傷者60人、住家流失22戸、全壊75戸、半壊209戸、床上浸水1,500戸、階上浸水500戸などの大被害を出した。しかし、死者を出さなかったことは洪水に対する訓練の賜である。 太平寺の石段には昭和10年洪水の最高水位標が建てられている。		高知2508
高知70	住吉神社の宝永地震碑	高知県	四万十市（中村市）	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日午後1時前後に大地震が発生し、その後津波が来襲して、被害は甚大となった。南路志によると、各地の被害の状況は以下のとおりである。下田や初崎は全滅で潮は山まで、間崎や津蔵渕、実崎でも潮は山まで、鍋島や竹島、井沢、小津賀、宇山、山路では潮は田丁まで、中村では地震により三分の二の家が倒れ、潮は田丁までなど。 下田の住吉神社境内に宝永地震碑が建立されている。		高知216

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知71	為松公園の南海地震碑	高知県	四万十市（中村市）	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日午前4時15分、大地震が発生し、全町2,000余の家屋のほとんどを全半壊させるとともに、地震後の火災により町が焼き尽された。また、国民学校の3校舎・講堂などが倒壊したり、渡川鉄橋が墜落するなどした。中村の被害は、死者291名、負傷者3,415名、住家倒壊1,833戸、半壊1,168戸、焼失3,517戸、非住家倒壊1,215戸、半壊1,154戸、焼失4,555戸などであった。 為松公園には南海地震碑が建立されている。		高知223
高知72	消防団東中筋分団の水位標	高知県	四万十市（中村市）	風水害	昭和10年（1935）8月28日15時、台風が清水付近に上陸した。28日、29日の洪水により、渡川工事未着手区域の幹川及び後川では1.2m、中筋川では2.6m計画高水位を超え、工事着手区域の幹線では40～90cm、後川では70cm計画高水位を超えた。このため、渡川沿岸平地部は水深5～9m浸水し、耕地・宅地3,700haが泥海と化し、浸水家屋約4,800棟に及んだ。しかし、浸水の深さを減じ、家屋流失を免れさせたのは渡川改修工事の効果であった。（「内務省神戸土木出張所」による） 昭和10年と昭和38年の洪水時の水位標が中筋川沿いの消防団東中筋分団に示されている。（地上から昭和10年約380cm、昭和38年約210cm）		高知3118
高知73	東中筋小学校校舎の洪水痕跡	高知県	四万十市（中村市）	風水害	昭和10年（1935）8月28日15時、台風が清水付近に上陸した。28日、29日の洪水により、渡川工事未着手区域の幹川及び後川では1.2m、中筋川では2.6m計画高水位を超え、工事着手区域の幹線では40～90cm、後川では70cm計画高水位を超えた。このため、渡川沿岸平地部は水深5～9m浸水し、耕地・宅地3,700haが泥海と化し、浸水家屋約4,800棟に及んだ。しかし、浸水の深さを減じ、家屋流失を免れさせたのは渡川改修工事の効果であった。（「内務省神戸土木出張所」による） 昭和10年と昭和38年の洪水痕跡が東中筋小学校校舎に示されている。（地上から昭和10年約375cm、昭和38年約205cm）		高知3118

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知74	四万十川遭難慰霊碑	高知県	四万十市（中村市）	風水害 高潮	大正4年（1915）9月8日、台風（高潮）により、洪水氾濫。（四万十川の主な洪水の歴史による）／この洪水時に渡船が転覆するという惨事が起きた。この事故で、桑取から帰る途中の幡多郡立実科高等女学校（後の県立中村高校）の生徒4人を含む11人が濁流に呑まれた。 渡船転覆に関する四万十川遭難慰霊碑が建立されている。		高知5376
高知75	中半小学校の校長先生殉職の碑	高知県	四万十市（西土佐村）	風水害	昭和20年（1945）9月17日、台風により、山林の大木が倒れ、家屋は倒伏、浸水し、交通・通信は途絶し、田畑の被害も甚だしかった。特に四万十川沿岸一帯の地域は危険にさらされ、中半国民学校の校舎が倒壊して校具を搬出中の校長が殉職するという惨事を招いた。また、吉野川の増水も激しく、昭和10年の流失後復旧していた抜水橋は再び流失した。 中半小学校の旧校舎跡（四万十学舎）には校長先生殉職の碑が建立されている。		高知2506
高知76	口屋内のはいたか神社の洪水標	高知県	四万十市（西土佐村）	風水害	明治23年（1890）9月9日から11日にかけて、大暴風が襲来した。豪雨により大洪水となり、田畑の流失、稲作の被害、橋梁流失等の被害をこうむった。中村町の四万十川水位は、明治19年の時（平水よりも2丈9尺5寸高かった）よりも2尺高かった。西土佐村口屋内のはいたか神社境内の上り階段には、明治23年の洪水標が建てられている。 口屋内のはいたか神社境内には、明治23年の洪水標が建てられている。 なお、「はいたか」の漢字は偏が西と早、造りが鳥である。		高知2504

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知77	はいたか神社の宝永地震津波碑	高知県	宿毛市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日午前11時過ぎに大地震が起こり、午後1時過ぎから津波が襲来した。大津波は翌5日晩まで12度押し寄せた。土佐国の被害は流家11,170軒、潰家4,863軒、破壊家1,742軒、死人1,844人、流失牛馬542匹、亡所の浦63箇所、亡所の郷42箇所等に及んだ。（「丁亥変記」による）また、「谷陵記」によると、宿毛付近の海岸一帯は亡所となった。大島の庄屋の「小野家々譜」には、津波が昼夜11度襲来し、3番目の津波は大島のはいたか神社の石段の下から39段目まで到達したことが記されている。 大島のはいたか神社の石段には、宝永地震と安政地震の時の津波高を示す碑が建っている。 なお、「はいたか」の漢字は偏が西と早、造りが鳥である。		高知241
高知78	はいたか神社の安政地震津波碑	高知県	宿毛市	地震・津波 火災	嘉永7年（1854）11月5日、大地震が起こった。寅の大変と言われる。「甲寅大地震御手許日記」によると、夕方地震が起こった後も、日没までに2回、夜中に7、8回も地震があり、宿毛の町の家は大半がつぶれ、その上火災が発生して、大変な騒動になった。その後、津波が押し寄せ、宿毛の町の中にまで潮が来たが、津波の被害は大したことはなかった。一方、人々が津波に備えて山上に逃げ上がっていたため、火勢は盛んになり、本町、真丁、牛の瀬、沖須賀、仲須賀等ノ大半は焼失した。 大島のはいたか神社の石段には、宝永地震と安政地震の時の津波高を示す碑が建っている。 なお、「はいたか」の漢字は偏が西と早、造りが鳥である。		高知242
高知79	河戸堰記念碑	高知県	宿毛市	地震・津波	昭和21年（1946）12月21日、地震が起こり、津波が襲来した。この津波では中新田から片島の鷲州橋間の道路コンクリート舗装が浮き上がった程度で、総曲輪にはほとんど被害はなかった。河戸堰のすぐ下まで津波が来たが、堰には上がらなかったので、河戸堰には津波による被害がなかった。なお、大島のはいたか神社の石段には津波は上がらなかった。		高知247

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知80	五味天満宮の大正9年水害碑	高知県	土佐清水市	風水害	大正9年(1920)8月15日、大雨により、下の加江川流域は一面の泥海となり、田畑はほとんど砂礫の原と化した。特に永野堰より小方堰に至る堤防が50余間決壊したため、60余町歩が荒れ地となった。また、市野々地区では30余町歩が砂礫の原となり、全戸が浸水し、このうち2戸が流失した。この洪水は平水よりも27尺の増水であったという記録がある。翌大正10年に、村人たちは「下の加江耕地整理組合」を組織し、県知事に復旧援助を要請した。復旧工事は同年に着手し、昭和2年に竣工した。 五味天満宮には大正9年の水害碑が建立されている。		高知209
高知81	五味天満宮の安政地震碑	高知県	土佐清水市	地震・津波	嘉永7年(1854)11月4日、5日、大地震が起こった。大西家文書には、11月5日昼7ツ時、大地震により家、蔵とも潰家となり、まもなく大潮が入来たり、浦分の在家・蔵とも一軒も残らず流失したことなどが記されている。また、中浜村の池道之助清澄著「嘉永七年寅年地震津浪記」には、「下の茅浦汐大入流家有、ゑごの田へ廻船市艇干あがり候、ごみの家の田に市艇あかる。下茅の浜分不残家流失」とある。さらに、五味天満宮の地震碑には「十一月四日すつなみ来り五日大地震まもなく大潮入来る」などと記されている。 下の加江の五味天満宮境内に安政地震の碑がある。もともと伊豆田坂にあったが、昭和31年の伊豆田トンネル工事のため移設された。		高知208
高知82	唐船島の碑	高知県	土佐清水市	地震・津波	昭和21年(1946)12月21日、地震が起こり、津波が襲来した。この本には、高知県内の昭和南海地震・津波に関する石碑等として、土佐清水市の唐船島、高知市の仁井田神社の碑、須崎市の野見海岸の碑、河原恵美須神社の碑、須崎津波碑、須崎八幡宮の碑、原町地蔵堂の碑、土佐市の震災復興記念碑、真覚寺の最高潮位碑、大方町入野の加茂神社の碑、中村市の為松公園の碑等が紹介されている。		高知409

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知83	中浜港の恵比須神社の地震碑	高知県	土佐清水市	地震・津波	嘉永7年(1854)11月5日申の下刻(17時頃)、大地震が起こった。中ノ浜に生まれた池道之助清澄の「嘉永七寅年地震津浪記」によると、大地震により人々は立つことも、這い回ることもできなかったが、大地震が静まる否や大津波が来たため、人々はあり合わせの食べ物を抱え、老人、子どもを負い、泣きわめきながら山に逃げたことなどが記されている。津波は4、5度入り、このうち2、3度は特に高く、1～2丈の高さになったこと、地震は1刻に4、5回ずつ、翌朝まで50～60回起きたという。 中浜港の恵比須神社への参道石段の上に、安政南海地震に関する碑が建立されている。		高知232
高知84	池道之助清澄の地震津浪碑	高知県	土佐清水市	地震・津波	嘉永7年(1854)11月5日申の下刻(17時頃)、大地震が起こった。中ノ浜に生まれた池道之助清澄の「嘉永七寅年地震津浪記」によると、大地震により人々は立つことも、這い回ることもできなかったが、大地震が静まる否や大津波が来たため、人々はあり合わせの食べ物を抱え、老人、子どもを負い、泣きわめきながら山に逃げたことなどが記されている。津波は4、5度入り、このうち2、3度は特に高く、1～2丈の高さになったこと、地震は1刻に4、5回ずつ、翌朝まで50～60回起きたという。 中浜峠の共同墓地にある池家墓碑には、安政地震と宝永地震のことが記されている。		高知232
高知85	三崎十字橋の津波碑	高知県	土佐清水市	地震・津波	安政元年(1854)11月4日、5日、地震が起き、津波が襲来した。この論文では、安政地震・津波に関する碑として、伊田の安政津浪の碑、入野加茂神社境内の安政津浪の碑(以上、黒潮町)、下田住吉神社境内の津浪の碑(四万十市)、下ノ加江五味天満宮境内の津浪の碑、中浜の峠にある南無阿弥陀仏の碑、中ノ浜海岸の津浪の碑、三崎の南無阿弥陀仏の碑、十字橋の津波碑(以上、土佐清水市)が紹介され、碑文の解説や語句の説明なども行われている。		高知333

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知86	下川口橋の高知西南部豪雨災害碑	高知県	土佐清水市	風水害	平成13年(2001)の高知県西南部豪雨では、土佐清水市の下川口浦の区長が住民の安否確認のため、首まで水に浸かりながら、全戸に声かけをした。この豪雨災害では一人の犠牲者も出すことがなかったが、それは区長の責任感と行動力のおかげでもあった。(「救ったのは人のつながり」による) 下川口橋に石碑が建立されている。		高知5289
高知87	下川口支所の高知西南部豪雨災害記念碑	高知県	土佐清水市	風水害 土砂災害	平成13年(2001)9月、高知西南豪雨により、土佐清水市は大きな被害を受けた。短い時間に猛烈な大雨が降ったために、川の水が溢れて大洪水が起こった。田畑は泥で埋まり、たくさんの家が水に浸かり、壊れた。また、何カ所も山や崖が崩れ、道路も通れなくなった。被害は家屋損壊332軒、床上浸水94軒、床下浸水201軒に及んだが、犠牲者は一人もいなかった。水が引いた後には、ボランティアの人たちが後片付けを手伝ってくれた。下川口支所の前には、記念碑が建てられている。 下川口支所の前には高知西南部豪雨災害の記念碑が建立され、下川口支所内には浸水位痕跡がある。		高知1028
高知88	下川口支所内の浸水位痕跡	高知県	土佐清水市	風水害 土砂災害	平成13年(2001)9月、高知西南豪雨により、土佐清水市は大きな被害を受けた。短い時間に猛烈な大雨が降ったために、川の水が溢れて大洪水が起こった。田畑は泥で埋まり、たくさんの家が水に浸かり、壊れた。また、何カ所も山や崖が崩れ、道路も通れなくなった。被害は家屋損壊332軒、床上浸水94軒、床下浸水201軒に及んだが、犠牲者は一人もいなかった。水が引いた後には、ボランティアの人たちが後片付けを手伝ってくれた。下川口支所の前には、記念碑が建てられている。 下川口支所の前には高知西南部豪雨災害の記念碑が建立され、下川口支所内には浸水位痕跡がある。		高知1028

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知89	下川口小学校の水位痕跡プレート	高知県	土佐清水市	風水害 土砂災害	平成13年(2001)9月、高知西南豪雨により、土佐清水市は大きな被害を受けた。短い時間に猛烈な大雨が降ったために、川の水が溢れて大洪水が起こった。田畑は泥で埋まり、たくさんの家が水に浸かり、壊れた。また、何カ所も山や崖が崩れ、道路も通れなくなった。被害は家屋損壊332軒、床上浸水94軒、床下浸水201軒に及んだが、犠牲者は一人もいなかった。水が引いた後には、ボランティアの人たちが後片付けを手伝ってくれた。下川口支所の前には、記念碑が建てられている。 下川口小学校には水位痕跡プレートが設置されている。		高知1028
高知90	下川口浦の区長場の浸水水位	高知県	土佐清水市	風水害 土砂災害	平成13年(2001)9月、高知西南豪雨により、土佐清水市は大きな被害を受けた。短い時間に猛烈な大雨が降ったために、川の水が溢れて大洪水が起こった。田畑は泥で埋まり、たくさんの家が水に浸かり、壊れた。また、何カ所も山や崖が崩れ、道路も通れなくなった。被害は家屋損壊332軒、床上浸水94軒、床下浸水201軒に及んだが、犠牲者は一人もいなかった。水が引いた後には、ボランティアの人たちが後片付けを手伝ってくれた。下川口支所の前には、記念碑が建てられている。 下川口浦の区長場には浸水水位が示されている。		高知1028
高知91	下川口郷の大正9年洪水碑	高知県	土佐清水市	風水害	大正9年(1920)8月15日午後3時頃より雷鳴、降雨ともに甚だしく、雨粒は大豆粒以上で、雨というよりは水を注ぐが如くであった。この大雨が2、3時間継続したため大洪水となり、各地で被害が発生した。死者は幡多郡で172人、下川口村で9人であった。村内の下川口郷・下川口浦・貝ノ川郷の体験者の具体的な記録が掲載されてているほか、溺死者・圧死者調べ、洪水後の村内窮状と対策、義捐金、罹災民救済の様子等が詳しく示されている。 下川口郷の天満宮には大正9年洪水の碑が建立されている。		高知2943

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知92	春日神社の宝永地震碑	高知県	土佐清水市	地震・津波	宝永4年（1707）10月4日午の上刻、大地震が起こり、間もなく津波が来襲した。沿岸の低地の建物はほとんど全てが流亡し、人畜の死傷が多数に及び、土佐全州では家屋の流失11,095軒、死者1,844人の被害となった。下川口村の被害状況は不明であるが、例えば下川口浦には、役場の官吏が高所に登って海面を見張り、狼狽する農民に向かって絶えず津波来襲の猶予の有無を警告し避難上の利便を与えたが、自分は打ち来る波浪のために足場とともに荒い去られて溺死したという口碑が残されている。 下川口浦の春日神社の鳥居付近には宝永地震に関する碑が建立されている。		高知235
高知93	下川口浦の高知西南部豪雨災害7周年碑	高知県	土佐清水市	風水害	平成13年（2001）9月6日未明、高知県西南部地域では時間雨量100ミリ近い雨が4～5時間も続くという記録的な大雨となった。このため、山の崩壊や河川の氾濫等により、家屋の全壊・半壊・一部損壊300戸、床上浸水264戸、床下浸水540戸、浸水面積134.3haなどの大被害が発生したが、犠牲者はゼロであった。この論文では、犠牲者を一人も出さなかった要因を災害時の住民行動から探るとともに、この災害体験が住民の防災意識や防災行動に結びついているのかを災害1年後及び8年後の調査をもとに考察している。 下川口浦には高知西南部豪雨災害7周年碑が建立されている。		高知4523
高知94	貝ノ川八坂神社の西南部豪雨水害記念碑	高知県	土佐清水市	風水害	平成13年（2001）9月6日未明から早朝にかけての豪雨により、高知県西南部の各河川が氾濫し、5市町村で浸水被害を受けた。なかでも土佐清水市の宗呂川・益野川・貝ノ川川、大月町の小才角川・才角川・周防形川、宿毛市の福良川の浸水被害は甚大であった。被害は負傷者8人、家屋の全壊25棟、半壊・一部損壊275棟、床上浸水264棟、床下浸水540棟に上った。しかし、一人の犠牲者も出なかったのは地域の固い絆があったためで、隣同士の助け合いや地元消防団・警察の力などにより住民の命が守られた。 貝ノ川の八坂神社には西南豪雨水害記念碑が建立されている。		高知5207

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称	県名	市町村名	災害種類	石碑等に関連する災害の概要	石碑等の写真	四国災害アーカイブスで調べる
高知95	蓮光寺の階段	高知県	土佐清水市	地震・津波	宝永4年（1707）、わが国最大級の地震が発生した。本研究では、宝永地震津波による土佐国沿岸の村落の被災状況を記述した「谷陵記」をもとに、津波によって海水が及んだ限界点が明記されている記載例を抜き出し、それぞれの現場でGNSSを利用した測定機器により位置及び高度を測定し、高知県の沿岸各地での宝永地震の津波浸水高を示している。 土佐清水市の蓮光寺では、石段の上から3段目（標高14.6m）に津波が到達したと測定されている。		高知5266
高知96	小才角の高知県西南部豪雨災害碑	高知県	大月町	風水害	平成13年（2001）9月6日、活発な秋雨前線の影響を受けて、県西南部では断続的な豪雨となった。5日23時から7日10時までの総雨量は577ミリに達し、河川は急激に増水し、住家や田畑に被害をもたらした。6日午前3時15分に大月町は災害対策本部を設置し、5時15分には町内2,913世帯に避難勧告を出した。小才角地区の被害は住家の半壊5戸、床上浸水18戸、床下浸水25戸、河川3箇所、町道5箇所、田畑の流失、学校橋の損壊等に及んだ。大正9年以来の大水害と言われている。 小才角には高知県西南部豪雨災害の碑が建立されている。		高知4341
高知97	周防形川氾濫水位の標	高知県	大月町	風水害	平成13年（2001）9月6日未明から早朝にかけての豪雨により、高知県西南部の各河川が氾濫し、5市町村で浸水被害を受けた。なかでも土佐清水市の宗呂川・益野川・貝ノ川川、大月町の小才角川・才角川・周防形川、宿毛市の福良川の浸水被害は甚大であった。被害は負傷者8人、家屋の全壊25棟、半壊・一部損壊275棟、床上浸水264棟、床下浸水540棟に上った。しかし、一人の犠牲者も出なかったのは地域の固い絆があったためで、隣同士の助け合いや地元消防団・警察の力などにより住民の命が守られた。 周防形には周防形川氾濫水位の標が建立されている。		高知5207

四国災害アーカイブスの石碑等リスト

四国災害アーカイブス事務局
（一般社団法人　四国クリエイト協会）
〒760-0066　香川県高松市福岡町3-11-22
電話 087-822-1676　FAX 087-823-8569
http://www.shikoku-saigai.com

2020.7